

所得稅法中改正法律案外二十一
件特別委員會議事速記錄第二號

大正十五年三月三日(水曜日)午前十時四十六分開會

○委員長(齋前田利定君) 是ヨリ開會イ
タシマス、大藏大臣ハ問モナクコテ出
ラレルト云フコトデアリマスガ、ソレ迄ノ
間ニ黒田政府委員ガ出席サレテ居リマスガ
ラ、同政府委員ニ對シマシテ質問ヲ開始ス
ルコトニ願ヒタイト思ヒマス

○井上準之助君 私ハ是ハ營業收益稅ノ場
所デ御尋ネスルノガ宜シイカモ知レマセ
スガ、全體ニ互ニコトヲ、關係イタシマス
カ、御尋ネ致シマスガ、新稅ハ内ニ積
テ、減稅ハ的確ニ積テ居ルト云フコトヲ頻
リニ一般ニ言ヒ觸ラシテ居ル、外ノ稅ハ免
モ營業稅ニ於キマシテ、政府ハ五百萬
ノ減稅トナルト云フテ居ラレルケレドモ、其
實ハ殖エルノデアアルト云フコトヲ申シテ
居ルバカリデアリマセズ、此商業會議所ノ
聯合會デハ、六大都市ニ付テ、實地ニ付テ
調ベマシテ、非常ニ政府ノ言ハレル五百萬
圓減稅ト云フコトニ反對シテ居リマス、ソ
レデ其實ガ違フテ居ル爲ニ、商業會議所ノ
ナラズ、一般ニ稅ノ割合ヲ減ジテ貰ヒ
タイト云フコトヲ提案シテ居リマス、ソ
コデ我我ニモ非常ニ數字ガ無イノデ何
方ガ正シイノカ疑ガアルノデアリマス
ガ、民間デ考ヘマス、是迄ノ戰時利得稅
ノ場合トカ、何年デアリマシタカ、現在
ノ所得稅ノ改正ノ場合ニ、大分積リ方
ニ付テ異論ガアリマシタ、實際ノ成績
ヲ見マス、寧ロ却テ民間デ増加スルト
申シテ居ラ方ガ正シカッタ、ウナ場合
ガ非常ニ多イノデアリマス、從テサ
ウ云フ過去ノ經驗カラシテ、今度ノ營
業

收益稅モ營業稅ヨリモ殖エ、政府ノ五
百萬圓減稅ト云フコトハアレハ嘘デアル、
斯ウ言フテ調査書ヲ以テ非常ニソレヲ宣
傳シテ居ルノデアリマスガ、事實ガドウ
デアルカ、我々ハソレヲ伺ヒタイノデ
スガ、政府デ何等カノ方法デ五百萬圓
減稅ト云フコトノ證明ヲ立テラユナ
コトガ出來マスナラ、其調査書ナリ
又御説明ヲ承テ置キマシタラ大變結
構ト思ヒマス

○政府委員(黒田英雄君) 唯今御質問
ニ對シテ御答ヲ申上ゲマス、政府ノ今
回ノ稅制整理ノ結果ニ依リマスル收入
ノ増減見積リニ付キマシテ、減ジマス
ルモノニ付テハ正確ニ見積リ、增收ニ
付テハ内輪ニ見積リテ居ルト云フコト
ノ御質問ハ、衆議院ニ於テモ出マシ
タノデアリマスガ、大體申シマシテ決
シテ左様ナコトハナイノデアリマス、
廢減稅ヲ致シタモノニ付キマシテ、減
收ニナリマスルモノニ付キマシテハ、
十五年度ニ若シ稅制整理ガナカ
ッタナラバドレ位ニナルダラウカ
ト云フコトノ趨勢ヲ見マシテ、ソ
レダケヲ減收ニ立テ居ルノデアリ
マス、例ヘバ通行稅ノ如キニ於
キマシテモ、...通行稅ニ付キマシ
テハ、十三年度ノ收入ヨリモ幾分
カ増シマシタモノヲ以テ十五年
度ノ收入ト見マシテ、サウシテ
ソレダケヲ減ルト云フ風ニ見積
リテ居ルノデアリマス、特ニ之
ニ付テモ少ナク見ルトカ多ク見
ルトカ云フ風ナコトハ致シテ居
ラヌ積リデアリマス、ソレカラ
增收ニナリマスルモノ或ハ新稅
ニ屬シマスモノニ付キマシテハ、
是モソレハ的確ナリト信ジマシ
タ材料ニ依リマシテ計算ヲ致
シテ居ルノデアリマス、決シテ
此

見積リニ付キマシテ故ラ内輪ニ見
積リ或ハ多ク見積ルト云フコトモ
致シテ居ラスノデアリマス、唯
今例ニ御述ベニナリマシタ營業
收益稅ニ付キマシテ色々御議論
モアリマスヤウデアリマスルカ
ラ、御尋ニ依リマシテ茲ニ其數
字ヲ申上ゲテ見タイト思フノ
デアリマス、第一今回ノ整理ニ
依リマシテ、ドウ云フ風ニ増減
ガナルカト云フコトヲ先ヅ申上
ゲマス、而シテ唯今御舉ゲニナ
リマシタ六大都市ニ付キマシテ
御調ニナシタ數字ト云フモノ
ニ對シマスル考ヲ申上ゲタイト
思ヒマス、第一此營業收益稅ハ
御承知ノ通り法人ト個人トニ依
テ分ケテ居ルノデアリマスガ、
法人ニ付キマシテハ是ハ全國
ノ稅務署ニ照會ヲ致シマシテ、
十三年分ニ付キマシテ實際ノ
調査ヲ致シマシテ、ソレヲ多少
増シマシテ、増シタモノヲ以テ
基礎ト致シテ居ルノデアリマス、
又個人ニ付キマシテモ是ハ全
國ノ稅務署ニ照會ヲ致シマシ
テ、十三年分ニ付キマシテ是
ハ全國ノ稅務署ニ照會ヲ致シ
マシテ、個人ノ、若シ營業收益
稅ニナリマシタ場合ニ於テ、
ドレダケノ純益ガアルデア
ラウカト云フコトヲ調査ヲ致
シマシテ、サウシテソレニ對
シテ稅率ヲ掛ケテ居ルノデア
リマス、其根據ハ相當正確ナル
モノト信ジテ居ルノデアリマス
ガ、其結果ト致シマシテ全體
ニ及ボシマスル影響ハ、現行
法ニ依リマスル營業稅額ハ六
千四百六十四萬餘圓ト認メ
マシタノデアリマス、十五年
度ニ於キマシテ是ガ五千九百
四十七萬圓ニ相成ルノデアリ
マス、之ニ對シマシテ營業收
益稅ハ六千四百七十七萬餘圓
ト見積リテ居ルノデアリマス
シテ、是ハ此現行稅額ニ對シ
マシテハ免稅點ノ變更ニ依
リマシテ二百二十萬

圓ノ減ニナリマス、其他ニ於
キマシテ百九十七萬圓ト云
フ減ニナリマシテ、併セテ四
百七十七萬圓ト云フ減ニ相
成ルノデアリマス、併シ此中
ニハ新規ニ法人ニ依リマシ
テ範圍ノ擴張ト云フモノモ
アルノデアリマスガ、將來
營業收益稅ヲ納ムベキモノ
ニ付キマシテハ、即チ現行
稅額ニ對シテ百九十七萬圓
矢張り減ニナルノデアリ
マス、併シ其減ハ一方ニ於
キマシテ新設サレマシタ資
本利子稅額ト云フモノノ中
ニ法人ガ納メマスルモノ
ノ即チ營業收益稅カラ引
カレマス所云フト、ソレ
ダケ丁度...是モ稅務署
ニ付テ調査ヲ致シテ見
タノデアリマス、大體三
百五十萬圓バカシニ相
成ルノデアリマス、サ
ウシテ其三百五十萬圓
ガ引カレルノデアリ
マスカラ、之ヲ若シ兩
方負擔スルモノトシ
テ加算イタシテ見
マスト云フト、百八
萬圓バカリノ増加
ニナルノデアリマス、
併シ是ハ先程モ申
シマシタヤウニ法人
ノ課稅範圍ノ變更
ト云フモノガアル
ノデアリマス、ソ
レハ丁度此課稅範圍
ノ變更ニ依リマ
シテ營業收益稅
ニ付キマシテ二百
八十三萬圓、資本
利子稅額ガ二十四
萬餘圓併セテ三百
七十六萬餘圓ト云
フ新規ノモノガ這
入ッテ參リマスル
カラ、其ノ新規ノ
モノヲ差引イテ
現在營業稅ヲ納
メテ居リマスル
モノガ將來營業
收益稅ニナ
ッタ時ノ負擔
ガドウナルカ
ト云フコトヲ見
マス、ト云フト、
其三百七十
萬圓カラ引
イテ見ナケ
レバナリマ
セヌカ、ソ
レヲ差引
キマス
ト云フト
從來ノ營業
者ノ負擔
ノ減少ハ
百九十七
萬圓ニナル
ノデアリ
マス、現
行營業稅
額ト營業
收益稅額
ト...

現在ノ營業稅ヲ納メテ又將來モ營業稅ヲ納
メル者、即チ四百圓ノ免稅點ニ行カヌ爲ニ
除カレマス者ハ除イテ、即チ現在營業稅ヲ
納メル者將來營業稅納メタル者ヲ比
較シマス、現行ノ營業稅ニ依リマシテ六
千二百四十四萬餘圓ニナリマス、免稅點以
下ノモノハ除イテ營業稅益稅ノ新法法人ノ
モノヲ除イテ、其モノニ對シマスル其營業
收益稅ハ五千七百六十餘萬圓ニナルノデア
リマスカラ、差引減額ガ四百八十萬圓ニ相
成ルノデアリマス、即チ四百八十萬圓ト云
フモノガ、現在ノ營業稅ヲ納メテ居ル者デ
アツテ、ソレガ營業稅益稅ニナリマスル時ノ
負擔ヲシマスル金高ニ比較シマス、ソコニ
ト、ソコニ四百八十萬圓ト云フ減ニナルノ
デアリマス、是ハ大體七分七厘近カラハ
分四厘ニ相成リマスルカラ、大正十五年度
ノ營業稅ニ付キマシテハ、現行法ニ依リテ
算定イタシマシタモノカラハ分ヲ減ズルト
云フコトニ致シマシタノハ、其數字カラ參
テ居ルノデアリマス、斯様ニ算出ノ根據ニ
於キマシテハ全國ニ於テ取調ベマシタモノ
ヲ根據ト致シテ居ルモノデアリマシテ、其
結果ガ前申上デマシタヤウナ結果ニナルノ
デアリマスルカラ、營業稅益稅ノ制ハ現行
ニ對シマシテ約八分ノ減少ニナルノダト云
フ風ニ考ヘテ居ルノデアリマス、然ルニ先
般六大都市ノ法人ニ付キマシテノ營業稅益
稅額ニ付テ、商業會議所ノ聯合會等ニ於テ
御調ベニナツテ御發表ニナツテ居ルモノガ有
ルノデアリマスガ、之ニ付テ拜見シテ見マ
スト云フト、六大都市ニ於キマスル八百二十
七ノ法人ニ付テ、現行營業稅額ト新法ニ依
リマス營業稅益稅額ト比較サレマシテ、
其比較サレマシタノニ、其中デ増稅トナルモ
ノガ四百三十七、又減稅トナルモノガ三百
九十、數ガアリマシテ、其差額ニ於キマシテ

結局現行營業稅額ニ對シマシテ五割七分七
厘ノ増加ニナルト云フ割合ガ市サレテ居ル
ノデアリマス、サウシテ資本利子稅、地租
ト云フモノ、捺除額ヲ斟酌シテ、大體七分
七厘位ノモノガアルモノト見テ、先ヅ五割
ダケノ増加ト云フコトヲ推定サレマシテ、
大正十三年度ニ於キマスル營業稅ノ決算額
ノ六千九百九十餘萬圓ニ對シマシテ、其中デ
此法人ガ納付シテ居ルモノヲ三千三百萬圓
ト推算サレマシテサウシテソレニ對シテ結
局現行營業稅額ニ比シマシテ千六百五十萬
圓ノ増稅ヲ來スト云フ御調ベニ相成リテ居
ルヤウデアリマス、併シ此御調査ノ内容ヲ
調ベテ見マス、ト云フト、少シク御計算ガ誤
テ居リハシナイカト云フ風ニ考ヘテ居ルノ
デアリマス、即チ第一ノ點ハ、現行營業稅
額ヲ：即チ現行ノ營業稅額ト、新法ノ營
業稅益稅額ト比較サレテ、増減歩合ヲ御
覽ニナリ、其現行營業稅額ヲ過少ニ計算サ
レタモノガ相當ニ多イノデアリマス、大體
此法人ノ納メマスル營業稅額ヲ、先ヅ大正
十三年ノ六千九百九十餘萬圓ニ對シマシテ三
千三百萬圓ト御推算ニナツテ居リマスガ、是
ハ先ヅ大體十三年度ノ當初ノ決算額ニ比較
シテ見マシテモ、大體ソレ位ナラバ、其數
字ニ付テハ大シタ差ハナカラウト考ヘテ居
ルノデアリマス、併シ實際ノ此稅
額ヲ御調ベニナルニハ、大正十三年度ノ分
モアリ、又十四年度ノ分モアツテ、色々區々
ニナツテ居ルヤウデアリマス、其中デ著シ
イモノヲ舉ゲテ見マス、ト云フト、會社ノ
名前ハ省略イタシタイト思ヒマスガ、十三
年分ノ營業稅額ガ六十餘萬圓デアアルモノガ、
之ヲ御調ベデハ十三年分ハ六十餘萬圓、十
四年分ハ七十餘萬圓デアアルモノガ三十二萬
餘圓ト計算サレテ居ルノデアリマス、ソ
レハ或ル會社ニ付キマシテハ二十四萬餘圓

ノモノヲ十四萬餘圓ト御計算ニナツテ居ル
モノモアリマス、又或ル會社ニ付キマシテ
ハ、十二萬七千餘圓ト云フモノヲ二萬五千
圓ト云フ風ニ計算ニナツテ居リ、又或ル會
社ニ於キマシテハ、十七萬餘圓ノモノヲ五
萬餘圓、又六萬餘圓ノモノヲ僅カニ二萬圓
ト云フ風ナ現行營業稅額ヲ非常ニ少ナク見
積ツテ、サウシテ出タモノガ非常ニ殖エル
ト云フ風ナ御計算ニナツテ居ルノモアル、
唯今ノハ一例デアリマス、サウ云フ
ヤウナノガ相當ニアルヤウデアリマス、
ソレカラシテ純益ノ計算ニ於キマシテモ、
非常ニ過大ナモノガアルヤウデアリマス、
是ハ會議所ノ調査ハ恐ラク考課狀ニ現ハレ
タ純益ヲ御調査ニナツテ居ルダラウト思ヒ
マス、考課狀面ノ純益デアラウト思ヒマス
ガ、併シ政府ガ調査決定イタシマスル所ノ
純益ハ、申上ゲルマデモナク、種々ノ事情
ニ依リマシテ、其考課狀ノ面ニ現ハレテ居
リマスル純益トハ違フノデアリマシテ、相
當増減ガアルノハ免レナイノデアリマス、
從テ考課狀ニ現ハレテ居リマスル所ノモノ
ヲ取ツテ、直ニ計算ノ根據ト致シマスルコ
トハ、相當デナイト考ヘテ居ルノデアリマ
スルガ、ソレ等ノ關係ニ付キマシテ、假ニ
アノ御調ベニ出テ居ル所ノモノヲ見マス、ト
云フト、或ル會社ニ付キマシテハ、其純益ガ
千四百七十餘萬圓デアリマスモノガ千七百
萬圓ノ計算ニナツテ居ルモノモアリマス、
或ハ四十餘萬圓ノモノヲ六十四萬餘圓ト御
計算ニナツテ居ルモノモアリマス、又六
百萬圓ノモノヲ千四百萬圓ト御計算ニナツ
テ居ルモノモアリマス、又四十五萬圓ノモ
ノヲ四百二十九萬圓ト云フ風ニ、非常ニ多
ク御計算ニナツテ居ルモノモアリマス、又
七百萬圓ノモノヲ千餘萬圓ニナツテ居ル
モノモアリマス、百萬圓ノモノガ四百九十

餘萬圓ト云フ風ニ：此一例ヲ舉ゲテ見マ
シテモ、非常ニ過大ニ純益ヲ見積ツテアル
ノガ有ルノデアリマス、ソレカラ又第三ニ
ハ、資本利子稅ト地租額ト捺除ノ見積リ
ガ七分七厘ト云フコトデ、最大限度ヲ推算
サレテ居ルノデアリマス、是ハ三千三
百萬圓ニ對シマスル七分七厘ト申シマス
ト云フト、二百五十餘萬圓ニ相成ルノデア
リマスガ、是モ先程申シマシタヤウニ、政府
ニ於キマシテハ全國ノ稅務署ヲシテ總テ
法人ニ付テ調査ヲ致シタノデアリマス、法
人ハ商業會議所ノ調査ニ於キマシテハ、先
程モ申上ゲマシタヤウニ八百二十七デア
リマスルガ、其法人ノ數ト云フモノハ、全國
ニ於キマシテ非常ニ多イノデアリマシテ、
三萬五千餘モアルノデアリマスルカラ、ソ
レ等ニ付キマシテ調査ヲ致シタノデアリマ
スルガ、ソレニ依リマスルト、資本利子稅
額ニ於キマシテ二百八十餘萬圓、又地租ニ於
テ百五十餘萬圓デアリマシテ、合セテ四百
三十餘萬圓ト云フコトニナルノデアリマス
此捺除シマスル、金額モ、ソコニ餘程ノ開
キガアルノデアリマス、サウ云フ風ニ此計
算ガ餘程違フテ居ルヤウデアリマス、ソレ
カラ又此御調ベハ六大都市以外ノ法人ニ付テ
御調ベニナツテ、其以外ノモノヲ六大都市
ト同ジク其増加割合ト云フモノヲ以テ推算
ヲサレテ居ルノデアリマスルガ、是ハ少シ
ク計算ト致シマシテハ多過ギルノデヤナカ
ラウカト考ヘラレルノデアリマス、即チ五
割七分七厘トシテ全國ヲ律セラレテ居ルノ
デアリマスガ、東京、大阪、名古屋等ニ、
本店ヲ有シテ居リマスル法人ニ付テハ、隨
分成績ガ宜シイ爲ニ、收入ノ多イト云フモ
ノモ隨分アルノデアリマス、資本ニ比較シ
マシテ其收入ノ舉ガアルコトガ多イト云フ
モノモアルノデアリマスルガ、併ナガラ其

以外ノ法人ヲソレデ以テ律スルト云フコトハ、此以外ノ法人ガ：殆ド此六大都市以外ノモノガ先ヅ四割ヲ占メテ居ルノデアリマス、其四割ノモノヲ總テ之デ律シテ居ルト云フコトハ、少シ多過ギルト云フ風ニ考ヘルノデアリマス、サウ云フ風デアリマシテ、御調ガ營業稅額ヲ少ナク計算ヲシ、純益ガ多クナル、從テ此營業收益稅ガ現行法ニ比較シテ多額デアルト云フ結果モ現ハレテ居ルヤウデアリマス、前ニ申上ダマス通り、御調ガ八百二十七デアリマスルガ、全國ニハ三萬五千ト云フ、法人ガ澤山アルノデアリマスカラシテ、ソレダケデ以テ全部ヲ推シマスルト云フコトハ如何カト云フ風ニ考ヘテ居ルノデアリマス、政府ノ調ベニ於キマシテハ、全國ノモノヲ調ベマシテ、ソレニ現行ノ稅率ト致シテ居リマスル百分ノ三・六ト云フモノヲ以テ、ソレニ依ッテ割出シマシタモノガ、先程御說明申上ダマシタヤウニ、現行ノ營業稅額ニ比シマシテ、從來ノ營業稅ヲ納メテ居ル者ニ對シマシテ、四百八十萬圓ト云フ減少ニ相成ルノデアリマスルカラ、大體ニ細カク調ベタモノニ付テ計算ヲシテ、スツカリ全部ハマダ致シテ居リマセヌガ、以上申上ダマス所ヲ見マシテモ必シモ其數字ハ信頼ガ出來ルモノデナイ、政府ノ方ノ調ベガ、此點ニ於テモ確カデアラウ、從テ唯今御議論ニナリマシタヤウニ、此結果トシテ非常ナ増收ニナル、少ナク見積タ爲ニ増收ニナル、過去ノ戰時利得稅ノ見積リノ如キ結果ヲ來シハシナイカト云フ御心配ニ對シテハ、是ハ左様ナコトハ無イト云フ考ヲ持ッテ居ル次第デアリマス

○西野元君 唯今ノ御說明デ大體了承イタシマシタガ、今ノ御說明ノ中ニゴザイマシタ、詰リ政府ノ執ラレタ此課稅標準、此計算ノ基礎ニナッテ居リマス數字ハ御所シ

下サルコトハ出來マセヌノダラウト思ヒマスケレドモ、非常ニ煩雜ナモノデナイカト思ヒマスガ、只今デナクとも宜シウゴザイマスケレドモ、何カ數字ニ互ル問題デアリマスカラ、何カ表ニデモシテ御所シテ願ヒマス、法人ノ百分ノ三・六ヲ掛ケル所ノ課稅標準ガ幾ラニナリマスカ、又個人ノ百分ノ二・八ヲ掛ケル所ノ幾ラニナリマスカ、此所謂純收益ナルモノノ豫想ハ無論ナスツコトト思ヒマス、ソレヲ算出イタシマシタ詳シイコトマデモ伺ハヌデモ宜シウゴザイマスカラ、此稅率ヲ御割出シニナツタ其計算ノ基礎ヲ伺ヒタイト存ジマス、ソレカラ尙序デナガラ伺ヒマスガ、只今ノ商業會議所ノ調ベニ對スル大體ノ御批判ガアツタノデアリマスガ、左様ナコトモ無論アリ得ベキコトト想像イタシマス、ソレデ今伺ヒマシタ點ハ、隨分現在ノ營業稅額ヲ非常ニ過當ニ見積ッテアルモノガアルヤウニ伺ヒマス、ソレハ個人ノ名ヲ指シテ例ヲ御舉ゲニナルコトハ御迷惑ト存ジマスカラ、此處ニ舉ゲデアリマス公ノ機關、橫濱正金銀行、斯ウ云フヤウナ計算ニ付キマシテハ其基礎ヲ御示シ下サルコトハ何等差支ナイト思フノデアリマス、此處ニ出テ居ル材料カラ正金銀行ノ營業稅額ナルモノヲ算出イタシマシテ、三十九萬四千圓ト云フモノニナルカドウカ、ソレハ若シサウ云フモノニ付テ集マリマシタ數ガアルナラバ、此三十九萬四千圓デアルカ、五十萬圓デアルカ、或ハ六十萬圓デアアルカト云フコトヲ伺ヒマスレバ、ソレニ依ッテ思ヒ半バニ過グルト思ヒマス、何カ公ノ機關ニ付テ差支ヘナイモノニ付テ一ニ例ヲ御所シ下サイマスレバ幸ヒト存ジマス

○政府委員(黑田英雄君) 只今西野サンノ御質問ニ對シテ御答ヘ申上ダマスガ、先程

一寸申述べル時ニ其點ヲ申上ダレバ宜シカッタト思ヒマスガ、不十分デアツタヤウデアリマス、商業會議所ノ調ベニ依リマスルト、先程申述べマシタヤウニ、全體ノ收益ガ五割増スモノト：五割七分七厘増スモノト計算致シテ居リマスル數字ヲ、百分ノ三・六デ以テ還元イタシマス二云フト、純益金額ガ全體ニ於テ十四億四千五百五十四萬圓ニ相成ル計算ニナルノデアリマス、先程申シマシタヤウニ、個々ノ會社ニ付キマシテ、色々調査上ニ於テ誤謬ガアルヤウニ考ヘマスガ、之ヲ假ニ宜シイトシテ還元イタシテ見マス二云フト、非常ナ金額ガ出ルノデ、此數字ガドウシテモ政府デ調ベマシタノニ比較イタシマス、サウ云フ數字ハ出ナイノデアリマシテ、只今御質問ニナリマシタヤウニ、此法人ニ付キマシテ政府ノ調査ニ依リマス二云フト純益ガ十億一千萬圓ニ相成ッテ居ルノデアリマス、ソレニ百分ノ三・六ヲ掛ケマシテ三千六百七十二萬餘圓ト云フコトニ致シテ居ルノデアリマス、ソレハ從來ノ此現行營業稅ヲ掛ケラレテ居ル法人ニ付テ調ベデアリマス、ソレカラ新規ニ課稅サレマスル法人ノ純益ハ八千九百萬圓ト見テ居リマスノデアリマス、ソレニ百分ノ三・六ヲ乘ジマス二云フト三百二十一萬餘圓ニ相成ルノデアリマス、個人ニ付キマシテハ純益九億二千餘萬圓ト見テ居リマス、ソレニ百分ノ二・八デ二千五百七十六萬餘圓ト云フコトニ相成ッテ居ルノデアリマス、ソレカラ第二ノ御質問ノ商業會議所ノ調査ニ依リマスル、色々ノ法人ノ營業稅額ニ付テ示シテ貫ヒタイト云フ御希望デゴザイマスルガ：

○西野元君 一寸御說明中デアリマスガ申上ダマス、私ハ先刻御話ニナリマシタモノノ名前ヲ伺ウ積リハ無論ナイノデ、サウ云

フ意味デ申上ダタノデハナイノデ、唯一二ノ例ヲ御舉ゲニナリマシタガ、ソレハドレガドウダト云フコトヲ仰シヤルノハ御無理ダラウト思ヒマス、ソレハ伺ウトハ思ヒマセヌガ、私ノ方カラ名ヲ指定シテ、例ハバ橫濱正金銀行トカ勸業銀行トカ、斯ウ云フモノハ國家ノ機關デ公明ナモノデアルト思ヒマス、ソレヲニ付テ一例ヲ御所シ下サイマスレバ、後ハ想像イタシマシテ了解スルト云フ意味デ申上ダタノデアリマス、強イテソレハ伺ウ積リデハナイノデアリマス

○政府委員(黑田英雄君) 唯今御指摘ニナリマシタヤウナモノハ、大シテ利益ハナイカト思ヒマスガ、若シ非常ニ誤ッテ居ルモノハ寧ろ其外ノモノニ多イノデアリマシテ：

○西野元君 強イテ聞カヌデモ宜シウゴザイマス

○政府委員(黑田英雄君) ソレデハ只今調ベマシタ書類ヲコナラニ持ッテ參ッテ居リマセヌカラ、後デ持ッテ參リマシテ、御目ニ掛ルコトニ致シマス

○左右田喜一郎君 只今ノコトニ關連シテ私モ御伺ヒシタイト思ヒマスガ、今ノ問題ハ朝野ニ於テ甚ダ重要視シテ居ル問題デアリマス、從來ニ於テ營業稅ガ大變惡稅ダト云フヤウナコトヲ言ハレテ居リマスルコトハ、是ハ例ヘハ外形標準ト云フヤウナ課稅ノ方法ト云フコトモ無論アルノデアリマスガ、併ナガラ惡稅ト云フヤウナコトニ依ッテ單ニ非難サレルノミデハアリマセヌデ、ソレハ通行稅ト云フヤウナモノガ、無論天下ノ惡稅デアルト云フヤウナコトガ分ッテ居ッテモ、通行稅ニ對シテ非難モナカッタヤウデアリマス、從ッテ此金額ノコトハ大變重要ナコトデアルト思ヒマスノデ、先程政府委員カラ御說明モアリマシタノデアリマスガ、先程ノ政府委員ノ御說明ニナリマシ

タコトヲ、若シ表ニデモシテ戴クコトガ出来マスレバ非常ニ仕合セト思ヒマス、サウ云フモノガ出来マスデゴザイマセウカ、一寸伺ヒタイト思ヒマス

○政府委員(黒田英雄君) ソレデハ後程マデニ調査イタシマシテ差上ダルトコトニ致シマスルガ、商業會議所ノ御調ベニナッテ居リマスルモノニ對シテハ、表ニシテ一寸御目ニ掛ケルコトモ或ハ困難カト思ヒマスガ、只今述ベマシタヤウナコトヲ一寸目ニ分リマスルヤウニ認メマシテ差上ダルトコトニシテ宜シウゴザイマセウカ

○左右田喜一郎君 私ガ申上ダタノハ一寸言葉ガ足りナイノデ甚ダ恐縮デアリマスガ、商業會議所ニ關スルモノヨリモ、政府ニ於テ御調査ニナリマシテ、先程御述べベナリマシタモノヲ一目瞭然表デ分ルヤウニシテ戴ケレバ、大變都合ガ宜シイカト思ヒマス

○政府委員(黒田英雄君) ソレハ拵ヘマシテ差上ダルトコトニ致シマス

○藤山雷太君 私ハ此營業、所得稅ノ外形ニ依ッテ今マデノヤウニヤルノハイカヌ、純益ニ課稅シナケレバナラス、是ハ大變結構ナコトデアリマスガ、體系論ナドカラ言ッテサウカモ知レマセヌガ、個人ノ純益ノ外形標準ニ依ラズシテ、純益ヲ算定スルト云コトハ、ドウ云フコトヲスルノデアリマスカ、是ハ法人ナラバ出来マスガ、矢張り今マデノヤウナ仕來リデヤリマス、ソコニ始終爭ヒガ起ッテ同ジヤウナ面倒ガ起リハシナイカト思ヒマス、普通ノ個人營業ノ利益算定ト云フコトハ餘程ムツカシイヤウニ思ヒマスガ、今マデノヤウナコトデ、ソレデ能ク行ハレマスカ、ソレヲ伺ヒマス

○政府委員(黒田英雄君) 寔ニ御尤モデアリマスル、法人ニ付キマシテハ、御尋ノ通り

貸借對照表損益算出表、其他色々計算書ガアリマスノデ比較的容易デアリマスルガ、個人ニ付キマシテハ御説ノ通り之ヲ調査イタシマスルニハ、相當困難デアルト思フノデアリマス、外形標準デアリマスル場合ニ於キマシテモ、矢張り賣上金額ヲ調べマスルト云フ風ニナルコトニナリマス、併ナガラ當是ハ困難デアルノデアリマス、併ナガラ今回此改正ノ稅制整理ノ結果ト致シマシテ、外形標準ヲ止メマシテ純益ト云フコトニナリマスルコトハ、即チ負擔ノ公平ヲ期スル上ニ於テ、是ガドウシテモ此外ニ執ルベキ途ガナイノデアリマスカ、純益ヲ課稅標準トスルト云フコトニ相成ッタノデアリマスカ、ドウシテモ此純益ト云フモノヲ正確ニ公平ニ調査ヲ致サナケレバナラヌト云フコトハ當然ノコトニ相成ルノデアリマス、之ニ付キマシテハ矢張り從來同ジヤウニ多少此外形標準トナルベキモノノ調査ヲ致サナケレバナラス、即チ販賣業ニ付キマシテハ凡ソ賣上ガドレ位アルノデアラウカト云フコトモ調査シ、或ハ其他總テ取引ノ關係等ニ付キマシテモ外部カラ調査イタシ得ル範圍ニ於キマシテ、出來ルダケノ周到ナ調査ヲ致シマシテ、サウシテ今度年々其經濟界ノ狀況ニ依リマシテ、或ハ同ジ賣上デアリマシテモ、今年ハ收益ガ少イトカ或ハ今年ハ收益ガ多イトカ云フコトハ、是ハ大體ノ經濟界ノ狀況ニ付キマシテ、大體ニ於キマシテサウ云フコトガアルノデアリマスカ、是等十分ニ調査イタシマス、之ニ付キマシテハ或ハ同業組合ニ對シテ諮詢ヲ致スコトニスルトカ、或ハ標準トナリマスル所ノ營業者ニ付キマシテ、詳細ノ調査ヲ致シテ、是ハ今デモ調査イタシテ居ルノデアリマスカ、調査ト申シテモ店頭ニ行ッテ帳簿ヲ調査スルノデアリマセヌデ、

色々調査ノ資料ヲ供給ヲシテ貰ッテ居ルノデアリマス、ソレニ依ッテ大體ノ標準トナルベキ調査ハ出來ルノデアリマス、ソレニ基キマシテ又個々ノ營業者ニ付キマシテハ、其營業者ニ特有ナ事情ト云フモノモ斟酌ヲ致シマシテ、各其人々ニ應ジマスル決定ヲ致シテ參ラナケレバナラヌト考ヘテ居リマス、之ニ付キマシテハ今回此營業稅ガ廢止サレマシテ、其爲ニ營業稅ノ方ニ於キマシテハ人ガ減ズル譯デアリマス、所得稅ノ所得調査ヲ致シマスルノニ、今マデ所得稅ノ調査ガ四月カラ所得稅ノ調査 掛リマシテ、所得稅ヲ終リマス、更ニ營業稅ノ調査ニ掛ルト云フ風ニ、年中分ケテ稅務署員ガ其仕事ニ從事スルヤウナ事ニナッテ居タノデアリマスガ、今度ハ之ガ一緒ニ同時ニ調査ヲスルヤウナコトガ出來ルト思フノデアリマスカ、殆ド一年ヲ通ジマシテ之ガ調査ニ全力ヲ注イデ行クト云フコトニ致ス積リデアリマス、又人ノ點ニ付キマシテモ、營業稅ガ無クナッテ然ラバ所得ト同時ニ決定サレル所ノモノガ純益ニナッタカラ、ソレダケ人ガ減ズルカト云フコトニナル譯デアリマスルケレドモ、前申上ダマスルヤウニ、調査ノ上ニ於キマシテ、相當此周到ナ調査ヲ致シマスル上ニ於テ手モ要スルノデアリマス、經費モ要スルノデアリマスカ、從テソレニ對シマシテハ幾分豫算ニ於テ増額ヲ要求イタシテ居ルノデアリマス、十五年度ノ豫算トシテ御要求申上ダテ居ルノデアリマスガ、ソレニ依リマシテ十分ニ調査ノ周到ヲ期スル積リデアリマス、仕事ト致シマシテハ御説ノ通り、相當是ハ困難ナ仕事デアリマスガ、一年間全力ヲ舉ゲテ之ニ從事イタシマシタナラバ相當ナ適切ナル調査ヲナシ得ルト云フ風ニ考ヘテ居ル次第デアリマス

○委員長(子爵前田利定君) チョット皆様に申上ダマスガ、幸ヒ大藏大臣ガ此處ニ臨席サレテ居リマスルカラ、何時又本議場ノ方カラ大藏大臣ヲ呼ビニ來ラレナイトモ限リマセヌカラ、大臣ノ御イデニナリマスル中ニ、成ルベク大臣ニ御對シマスル御必要ナ御質問ハ御願ヒ致シタイト思ヒマス

○藤山雷太君 私ハソレデヤ大藏大臣、一昨日ノ續キ見タイナモノデアリマスガ、御尋イタシマス、私ナゾハ成ルタケ金融ノ公平ト云ヒマスガ、流通ノ圖ル爲ニモ一方ニ資本ガ餘リ偏セナイヤウニシテ行カナケレバナラヌト考ヘル、其點カラ考ヘマシテ矢張り負擔ノ公平ト云フコトモ考ヘナケレバナラヌ、又産業ヲ興スト云フ爲ニハ資本ヲ潤澤ニシナケレバナラヌト云フ考モ生ジテ來マスルシ、又社會政策上カラモ色々産業ノ資金ガ澤山ニナッテ、産業ガ興ルノ希望サレルコト、思ヒマスガ、サウ云フ所カラ考ヘマシテ、ソレハ政府ノ御都合デハ公債ト云フモノニ非常ニ重キヲ置イテ、サウシテ公債ニハ成ルダケ利息モ掛ケナイ、稅モ掛ケナイト云フコトニ御努メニナッテ居ルヤウデアリマスガ、私ハ寧ろ政府ノ公債ハ一番是ハ信用ノアルモノデ、利率モズツ下ッテモ宜イ、社債或ハ株券ナドヨリシマスルト、所ガ今ノヤウナ形ニナリマス、ドウモ公債ニ資金ガ偏シテ來ヤシナイカト云フコトヲ私ハ感ゼラレル、公債ノ利息ニ付テハ公債ノ所有者カラ御取リニナッテ、サウスルト公債ハ利率モ下ッテ來マスカラ、從テ産業資金ニソレガ廻ハル、或ハ會社ノ株券トモナリマスルシ、色々是ハ産業、今ノ狀態デ此公債ダケハ特別ナ取扱ヲ受ケテ居ルヤウニナッテ居リマスレドモ、私ハ所有者カラ云ッテ見レバ一番是ハ安全ノ投資デアル、政府ノ發行サレタ公債デアル、ド

ウモ其方ニハ税ヲ課ケナイ、今度ノ資本利
子税ハ多少課ケルコトニナッテ居リマスガ、
サウシテ是ガ綜合所得ニモ這入ラヌト云フ
ヤウナコトニナリマス、私ナドハ將來産
業資金ヲ多クシヤウト云フ點カラモ、是ハ
少シ御掛ケニナツタ方ガ宜イ、併ナガラ是ハ
法律上ノ問題デ、發行ノ時分ニ斯ウ云フ約
束ガアルト云フ部分ガアリマスレバ、ソレ
ハ已ムヲ得ナイカモ知レマセスガ、一體ニ
政府ノ發行ノ公債タケハ特別ニ政府ノ資金
ヲ得ル爲ニ課ケヌト云フ、若シ御方針ガア
リトスレバ、私ナドハ同意ハ出來ヌ、斯ウ
考ヘマス、其點ヲ一ツ伺ヒマス

○國務大臣(濱口雄幸君) 其點ニ付キマシ
テハ、各方面ニ於テ考慮ヲ練リ、是マデ相
當議論アル問題デアリマス、篤ト政府ハ今
度ハ考慮イタシマシタガ、御承知ノ通り沿
革上ノ理由ガアルノデ、其沿革上ノ理由ガ
今日ノ狀態ニ於テ消滅セシメテ宜シイカト
申シマス、マダ少シ時期ガ早イダラウ
ト思フテ居リマス、免二角公債ノ年々ノ新
規發行高ハ減ジテ居リマス、公債ノ
現在高ハ五十億圓ニ垂ントシテ居ル、五
十億圓ヲ突破シテ居ル、五十億圓内外ノ數
ヲ：其上始終是マデ發行シマシタ短期公
債ノ償還期限ガ到來イタシマシテ、其度毎
ニ現金ヲ以テ償還スルト云フコトハ無論出
來マセヌデ、常ニ借換ヲヤツテ居リマス、サ
ウシテ其借換ヲスル金額ハ年々三億圓トカ
二億圓トカ巨額ニ達シテ居ル狀況デアリマ
ス、公債政策ト云フコトニ付キマシテハ、
モウ少シ從來ノ考ヲ繼續シテ行クト云フコ
トハ必要デハナイカ、私ノ考カラ致シマス
ト云フト、成ルベク金融ノ緩慢ヲ利用イタ
シマシテ、短期公債ハ長期公債ニ借換ヘナ
ケレバナラヌト思ヒマス、然ラズンバ借換
ヘノ度毎ニ非常ニ面倒ヲ引起シ、金融ニ不

安ヲ與ヘルト云フコトニナルカラ、追ヒト
短期公債ハ長期公債ニ借換ヘテ行クト云フ
ヤウナ整理ヲシナケレバナラヌト云フ際デ
アリマス、今少シク是迄ノ傳統的ノ特
點ヲ永續セシメテ置イテ、サウシテモウ少
シ整理ガ出來マシタ時ニ於テ、始メテ特點解
除ト云フ問題ヲ考慮スベキモノデハナイ
カ、大體左様ニ考ヘテ居リマス、唯新ニ起
スベキ資本利子税ニ付キマシテハ今御話申
上デマシタ通り是ハモウ一般ニ課税シテ宜
シウゴザイマス、之ニ付テモ、資本利子税
ト云フモノ、矢張り其形ニ於テハ所得税
ノ第二種ト同ジヤウナモノデ、尙ホ其ノ税
ハ公債ノ利子ニ掛ケルコトニナルト云フコ
トノ議論モ承ハツテ居タノデアリマス、ソ
レハ全ク税ノ性質ガ違フテ居リマス、資
本利子税マデモ公債ノ利子ヲ免除スルト云フ
コトニ致シマス、餘リニ他ノ證券トノ懸
隔ガ甚ダシク、世間ノ議論モ誘發スルト云
フ心配モアリマシタカラ、資本利子税ニ掛
ルト云フコトニ致シマシタ、所得税ニ掛
マスコトハ今少シ時機ガ早クナイカ、斯様
ニ考ヘテ居リマス

○藤山雷太君 若シ此地方債位ニ實際御掛
ケニナルトドノ位利子ガ取レマス、大分
ノ收入ノアルモノノヤウニ伺ヒマス、地
方公債タケニ國庫ノ公債カラ稅ヲ御取リニナ
ルト若シスレバ幾ラ位ノ收入ガ取レマス
○政府委員(黑田英雄君) 内國債ノ利子ニ
對シマシテ今回課税イタシマスル所ノ資本
利子税ノ收入ガ二百九十七萬餘圓トナツテ
居リマス、百分ノ四ト致シマス、丁度
此倍額ト云フコトニ相成リマス、五百九十
萬圓ホドニナリマス、デゴザイマス
○馬場鐵一君 私ハ大藏大臣ニ御尋フ致シ
マス、租税ノ立法ハ申迄モナク、昨日御話
ガアリマシタ通り、學理ニ偏スルト云フコ
トハ固ヨリイケン、實際ノ事情ヲ十分汲
デ立法スベキコトハ申迄モナイガ、又他方
ニ於テ學理ヲ無視スルコトモ固ヨリイケン
イ、是ハ誠ニ御説ノ通りト思ヒマス、私
モ租税立法ノ上ニハ學理ト實際ト兩々相
俟テ進ム、併シナガラ從テ茲ニ色々ノ理
論上ニ於テノ衝突矛盾或ハ不合理ト云フコ
トモ或點ニ於テハ起ルコトモ已ムヲ得ナイ
ト思フノデアリマス、扱テ今回ノ直接國稅
ノ體系ハ、所得稅ヲ所謂中樞トシテ、是ニ
配スルニ收益稅ノ系統ヲ以テセラレタ、即チ
地租ハ、賃賃價格ニ於テ：地租、資本利子
收益、營業收益、ソコデ問題ハ此家屋稅ノ
問題、昨日來御説明ノ通り家屋稅ハ、我ガ
國デハ地方稅トシテ發達シテ來タ譯デア
ル、之ヲ國稅トシテ今日所得稅ノ補完稅ト
スルコトハ事實ニ於テ差支ガアル、是モ私
ハ左様カト思フノデアリマス、併ナガラ
苟クモ直接國稅ノ體系ヲ整ヘル、斯ウ云フ
役ニナリマスレバ、國稅ハ國稅ノ範圍ニ於
テ負擔ノ均衡ヲ得ルト云フコトヲ考ヘナケ
レバナラヌ、即チ何處迄モ所得稅ノ補完稅
トシテ、收益稅ノ體系ヲ以テ是ニ配スルナ
ラバ、其系統ヲ正シスルト云フコトハ、
是ハドウモ致サナケレバナラヌコトデハナ
イカ、ソコデ家屋稅ハ成ルベク之ヲ國稅ト
シテ採用セシメルト云フコトハ不都合デア
ルトシテモ、家屋稅ヲ各府縣ニ於テ取ル、
其取ル場合ニ於テハ單ニ地方ニ委セルト云
フコトハドウ云フモノデアラウカ、即チ家
屋稅ハ一ツノ所得源、收益源デアアル、而シテ
家屋收益ハ財產所得トシテ重課スベキモノ
デアアル、斯ウ云フモノデアリマスレバ、地
方デ取ルノハ差支ナイ、固ヨリ取ラレル以
上ニ、私ノ疑ヒハ各府縣ニ於テ必ズ取ル、
或ハ程度ノ標準ヲ設ケテ必ズ取ルト云フコ
トデナカッタラバ、是ハ同稅ノ體系ヲ整ヘ

ル上ニ於テ不十分デアアルノデハナイカ、私
ハ其點ニ付テ第一ニ疑フテ居ルノハ此地方稅
ノ法律ヲ見マス、府縣ニ於テハ家
屋稅ヲ取ルコトヲ得ルト云フ規定ニナツテ
居ル、而シテ其課稅標準其他ヲ勅令ニ委任
サレテ居ルノデアアル、私ノ所謂疑ヒ：希
望ト申スカ、其體系ハ、直接國稅ノ今回ノ
體系ハ一種ノ立法方デアアルト思フ、私一箇
ノ論カラ申シマスレバ、私ハ理想論トシテ
一般所得稅ニ配スルニ一般財產稅ヲ以テス
ルト云フコトガ一番理論ニ適フノデアリマ
スガ、併シソレハ實際上非常ニ不便モアリ
マセウカ、所謂今日ノ體系ト云フコトニ付
テハ必ズシモ之ヲ否認スルモノデハナイ
ガ、家屋稅ヲ唯府縣ノ自由ニ委シテ置ク、
取ルモ取ラヌモ勝手デアアル、取ル場合ノ標
準其他ニ付テ勅令ニ委任サレテ居ルト云フ
コトデアレバ、是ハ直接國稅ノ體系ヲ正シ
ウスル上ニ於テハ甚ダ缺點ニナルノデハナ
イカト云フコトヲ疑フテ居ルノデアリマス、
其點ニ付テ大藏大臣ニ御説明ヲ先ツ承ッテ
置キタイ、ソレカラ續イテ此租稅ノ體系並
ニ此租稅制度ト云フ問題ハ言フ迄モナク平
素ニ於ケル整理、ソレヲ戰時ニ於テ如何ニ
利用スルカ、戰時ニ於ケル租稅、戰時ト云
フノハ言葉ガ惡イガ、非常事變ト云フコト
ノ場合ニ於テ、此租稅收入ノ増收ヲ圖ルト
云フコトモ平素ノ編成ニ於テ考ヘテ置カナ
ケレバナラヌ點デアアル、其點ニ付テハ今回
ノ租稅ノ立法ニ付テ若クハ租稅制度ノ改廢
ニ付テドウ云フ御留意ガアツタラウカ、私ハ
竊カニ今度ノ稅制案ヲ拜見シマシタ中ニ、
多少其點ニ於テ用意ノ缺ケテ居ル點ガアリ
ハシナイカト云フヤウニ考ヘテ居ルノデア
リマス、ドウ云フ御研究、ドウ云フ御注
意ガアリマシタカ、其點ヲ第二ニ伺ヒタイ

ノデアリマス、ソレカラ第三ニハ社會政策の租稅立法ト云フモノモ、是モ論ノアルコトデハナイノデアリマスガ、併ナガラ茲ニヨク考ヘナケレバナラヌコトハ、租稅ノ負擔ガ下層社會ニ非常ニ過重デアル、到底今日堪ヘ切レヌト云フガ如キ租稅ヲ廢シ、若クハ減ズルト云フコトハ、是ハ素ヨリ努メナケレバナラヌコトデアリマスガ、私が申上タルマデモナク、租稅ナルモノハ長イ間行ハレテ居リマス、其長イ間行ハレテ居ルガ爲ニ、一種ノ之ニ馴サレテ……經濟事情ト云フモノガ馴致セラレテ居ル、是ハ私が申スマデモナク、學者モ昔カラ言フテ居ルコトデアリマス、隨テ比較的租稅負擔ノ苦痛ヲ感ジナイト云フコトハ是ハアルコトデアリマス、是ハ當ニ租稅ノ問題バカリデナクテ、社會ノ事柄ニ幾ラモアルノデアリマスガ、殊ニ租稅ノ負擔ノ如キハ長イ間繼續サレテ居リマス、存外理窟ニ合ハヌモノデモ、負擔ノ苦痛ヲ感ジナイモノガアルノデアリマス、成程理論ノ上カラ云ヒマスレバ是ガ下層社會ノ負擔デアル、一般貧民課稅デアルト云フガ如キコトデモ比較的ニ負擔ニ痛苦ヲ感ジナイ、是ハ外國ノ租稅制度ニ私ハ幾ラモアルト思フノデアリマス、而シテ斯ノ如キモノヲ廢シ減ズルコトハ、無論社會政策のニ私ハ惡イト申ス譯デハナイガ、個人個人トシテノ負擔トシテ比較的輕微ノモノデアル、理論上ニ於テハ成程矛盾モ不合理モアラウガ、個人個人トシテハ比較的輕イ、從テ苦痛ヲ感ジナイ如キモノハ、寧口之ヲ廢止セズニ置イテ、其集メ得タ所ノ租稅トシテ上デ來ル國庫ノ收入ノ如キハ相當ノ高ニナル、千萬圓、二千萬圓ト云フヤウナ高ニ上ボルモノハ私ハ寧口斯様ナモノハ社會政策の租稅立法ノ上ニ於テ之ヲ廢減スルヨリモ、其這入ッテ來タ

所ノ收入ヲ社會政策施設ニ使フト云フコトノ方ガ效果ガ多イモノデハナイカ、成程若シ其負擔ガ特ニ國民ニ痛苦ヲ感ゼシメテ居ルト云フモノナラバ、是ハ租稅ノ改廢、稅制整理ヲ行ハレル時ニハ、無論廢止若クハ減ズルモノデアルガ、比較的痛苦ヲ感ゼザルモノニ付テ長年ヤッテ居ッタヤウナモノハ、寧口之ヲ廢減イタサナイデ以テ、其集メ得タ資金ヲ以テ社會政策のニ使ヒマシタナラバ、是ガ却テ國家並ニ國民ノ爲ニ利益ニナルモノデナイカ、殊ニ此政府ガ努メテ唱ヘラレル所ノ勤儉貯蓄、此方針ニ於テハ至極結構ノモノデ、滿腔ノ同意ヲ有ッテ居ルノデアリマスガ、此勤儉貯蓄ノ方面カラ考ヘマシテモ零碎ナ個人々々ノ金ヲ……租稅負擔ヲ免ジタガ爲ニ是ガ有利ニ使ハレルカ否ヤト云フコトヲ考ヘナケレバナラヌノデヤナイカ、一方ニ於テ勤儉貯蓄ヲ獎勵セラレルナラバ、何カ有利ニ使ハレルト云フコトヲ前提トシテ租稅負擔ヲ免ズルコトナラバ結構デアアルガ一人一人ノ負擔ガ輕減サレタ、其金ガ、果シテ有利ニ即チ貯蓄節約ト云フ方ニ於テ役立ツモノデアアルカ、是ハ大ニ疑ヒナキヲ得ナイノデアリマス、然ラバデス、失フ所ハ千万二千萬元ノ國家ノ收入デアアル、ソコデ個人々々ノ負擔ヲ免ゼラレタモノハ僅カノ金額デアアル、ソレデ此零碎ナル金ヲ貯蓄スルトカ云フヤウナ、有效ニ使ハヌト云フコトデアリマス、果シテ是ガ國民ノ爲ニ利益デアルト云フ風ニ考ヘラレルモノデアリマセウカ、此點ニ於テ私ハ大ニ疑ナキヲ得ナイノデアリマス、然ラバ御前ノ言フ如クンバ、租稅ノ負擔輕減ト云フコトハ、絕對ニナイデヤナイカ、斯ウ云フ論ガ出ルカモ知レマセヌガ、私ハ租稅ノ負擔ノ輕減ト云フモノハ勿論ナシテ可ナリ、殊ニ平時ニ於テ民力ヲ涵養シ、戰時ニ

於テ大ニ租稅ノ增收ヲ圖ルト云フガ如キ考ニ於テモ、租稅ノ負擔ヲ輕クシテ置クト云フコトハ、固ヨリ異議ノアルコトデハナイノデアリマスガ、我國ノ今日ノ實際ノ狀況ニ於テ幾多ノ國ノ施設スベキ事業多ク今日ニ於テ、殊ニ社會政策のノ施設ヲナスベキコトノ殊ニ多イ今日ニ於テハ、此點ニ付テハ十分ニ考ヘナケレバナラヌモノデハナイカ、斯ウ云フコトニ於テ勤儉貯蓄ト、社會政策の租稅立法ト、國家ノ社會政策の施設ト、此關係ニ於テ、御意見ヲ伺ッテ見タイノデアリマス、ソレカラ第四デアリマス、凡ソ私申上タルマデモナク間接稅ノ如キハ増稅ヲ致シ、或ハ新稅ヲ設定イタシマスレバ、所謂轉嫁ノ作用ニ依ッテ物價ヲ騰貴セシメル、隨テ國民ニ一般ニ負擔ヲ及ボス、斯ウ云フ消費者ニ負擔ヲ及ボスト云フコトハ、是ハマア一般的デアラウト思ヒマスガ、無論例外モアルガ大體ニ於テ其通りデアルト思フガ、此間接ノ消費稅ヲ廢シタリ、減ジタリスル場合ハ物ニ依ルト云フト必シモ廢シタリ、減ジタリシタダケノ效果ノナイ場合ガ可ナリ多イコトデアルト思ヒマス、素ヨリ其時ノ經濟事情、或ハ其課セラレタル品物ノ種類等ニ依ッテハ、色々違ッテ來ルデアリマセウケレドモ、場合ニ依ルト、往々ニシテ間接消費稅ノ廢減ハ其效果ヲ消費者ニ及ボサヌト云フヤウナコトガ隨分アラウト思フ、今回ノ通行稅廢止ノ如キハ、是ハ所謂汽車、汽船電車等ノ企業者ハ國家ノ特別ノ監督ヲ受ケテ居リマスルガ故ニ、是ハ效果ガ直接ニ現ハレルデアリマセウガ、其他ノモノニ付テハ必シモ私ハ效果ヲ現ハサヌト云フノデアリマセヌガ、現ハサザルモノモアリハセヌカト思フノデアリマス、若シ然リトスルナラバ、折角此國庫ハ收入ヲ失フ、サウシテ其效果ガ一般ノ消費者ニ及バ

ヌト云フコトデアレバ、廢減稅ヲ行ッテ實際ニ値打ガ無イト云フコトニナリハセヌカト思フ、無論先達來ノ御説明モアリマシテ、サウ云ッテ居タナラバ、マルデ消費稅、間接稅ノ廢減ハ行ハレナイデハナイカト云フ御論モアラウト思ヒマス、私ハ左様ニハ考ヘナイ、即チ轉嫁ノ作用ハ云フ迄モナク行ハレナイコトモアル、併ナガラ行ハレルコトガ多イ、併シ廢減稅ノ場合ニ於テノ效果ハ、寧口轉嫁ノ效果ヲ疑フノデアリマス、何故ナラバ從來物品ハ或値打デ相當賣レテ居ッタモノヲ、新ニ値打ヲ低ウスルト云フ時ニハ、特ニソコニ競争ガ起ル、斯ウ云フコトガ現ハレルノデアリマス、而シテ我國ニ於テハ消費者ノ聯合勢力ガ特ニ弱イノデアリマス、消費トシテハ何ト申シマスカ、社會の勢力ト云フヤウナモノガ極メテ弱イ、斯様ナ國ニ於テハ往々ニシテ此中間ノ商人ナリ、製造業者ガ隨分租稅ヲ免除サレタ時ニハ利益ヲ得ルト云フヤウナコトガ、往々行ハレハシナイカト云フコトノ杞憂ヲ有ッテ居ルケレドモ、若シ大藏大臣トシテ折角消費稅ヲ廢減セラレテ、社會政策ナリトシテ御金ヲニナルコトハ結構デアリマスルガ、若シ左様ナ效果ガ現ハレヌト云フヤウナコトデアリマスルト、徒ラニ國家ノ收入ヲ失フト云フ結果ニ歸著シハシナイカ、ソレハ稅制整理ノ效果ノ現ハレザルノミナラズ、誠ニ詰ラナイ無用ナコトニ國費ヲ失フト云フコトニナルノト同ジデアラウト私ハ思フ、此點ニ付テ私ハ疑ト心配ト有ッテ居ルノデアリマス、マダアリマスルガ長クナリマスカラ、先ヅ是等ニ付テノ御意見ヲ拜聽シタイノデアリマス

○國務大臣(濱口雄幸君) 第一ハ家屋稅ニ付テ御質問デアリマシタガ、租稅ノ體系ト云フコトヲ能ク申シマスガ、丁度御説ノ

通り、直接國稅ニ付テ申スコトデアラウト
思ヒマス、其直接國稅ニ付テノ體系ヲ正ス
ガ爲ニハ、家屋稅ハ國稅トシテ新ニ設定ス
ルノガ理論的デアリマス、昨日モ申上デマ
シタ理由ニ依ッテ私ハ地方ニ移シタ、地方ニ
委ネテアルト云フコトニ付テハ、只今如何
ニモ其通りデアラウト云フ御意見デアッタ
ラウト思ヒマス、然ラバ地方ニ移スコトハ宜
シイガ、地方ニ之ヲ取ラセル以上ハ各府縣
トモ必ズ一帯ニ之ヲ徵收スルト云フコトデ
ナイト云フト體系上ニ缺點ヲ生ズルデハナ
イカ、然ル所地方稅ニ關スル法律案ヲ見テ
見ルト、府縣ハ家屋稅ヲ徵收スルコトヲ
得、取ル所モアリ取ラヌ所モアルト云フノ
デハ、家屋稅ハ一般的ノ稅デナクナル、爲
ニ國稅ニ於ケル所ノ負擔ノ均衡ヲ失スルヤ
ウニナリハシナイカト云フ御質問デアリマ
ス、如何ニモ是ハ御尤モデアリマス、地方
稅ノ方面ニ於キマシテハ、御承知ノ通り地
租ノ附加稅デアリマシテモ、所得稅ノ附加
稅デアリマシテモ、總テ地方團體ニ課稅權
ヲ與ヘルト云フ形式ヲ以テ立法ガ出來テ居
ルノデアリマス、ソレ故ニ家屋稅ニ關シマ
シテモ其形式ハ地方ニソレヲ賦課シ得ルト
云フ體裁ニ立法ヲシテアリマスガ、而モ實
際ノ結果ヲ考ヘテ見マスルト云フト、地方
ノ財政ハ府縣戶數割ノ廢止、其他地方稅制
ノ整理ノ結果ト致シマシテ府縣ニ於テ餘程
ノ財源ヲ要スルノデアラウト思ヒマス、ソ
レガ或ル限ラレタル府縣ニ於テノミナラズ
全國ノ各府縣ニ互ニテ少カラザル財源ヲ要
スルコトニナラウト思ヒマス、ソコデ其財
源ヲ調達致シマスガ爲ニハ、此度提案ヲ致
シテアリマスル所ノ地方稅ニ關スル法律ニ
於テ家屋稅ヲ賦課スルコトヲ得ト云フ、其
課稅權ヲ與ヘラレテ居リマスカラ、其課稅
權ニ依ッテ各府縣共ニ家屋ニ向ッテ相當ノ課

稅ヲ見マスルニ至ルト云フ、斯ウ云フコト
ヲ期待シテ居ル譯デアリマス、形式ハ他ノ
例ニ依リマシテ「得」トナッテ居リマスガ、其
實際ニ於テハ必ズ各府縣共ニ之ヲヤルコト
ト思フテ居リマス、サウ致シマス、或ル
縣ニ於テハ家屋稅ヲ課シ、或ル縣ニ於テハ
家屋稅ヲ課セナイト云フコトニナリ、負擔
ノ均衡ヲ失スルト云フコトハ、事實ノ上ニ
於テハナイコトト考ヘテ居リマス、ソレガ
第一段デアリマス、第二ニ此度ノ稅制整理
ハ平時ニ於ケル所ノ制度ヲ專ラ見テ立案シ
テ居ルヤウニ見エル、戰時ニ於テハ如何ニ
シテ必要ナル財源ヲ得ベキカト云フコトニ
付テノ用意ガアルデアラウカドウデアラウ
カ、其點ニ迄研究ヲシテ稅制整理ヲ立案シ
タノデアラウカ、斯ウ云フ御疑問ナンデアリ
マス、此點ニ付テモ無論考慮致シマシタガ、
蓋シ其疑ノ起リマシタ所以ヲ考ヘテ見マス
ルニ、戰時、若クハ有事ノ際ニ於テ最モ徵
收シ易イモノト思ハル所ノモノハ消費稅
デ、即チ酒、煙草ノ如キモノガ一番國家有
事ノ際ニ於テ徵收シ易イ所ノ稅目デア
ル、從テ酒ノ稅率、煙草ノ値上ゲト云フコト
ハ戰時、有事ノ際ニ殘シテ置ケベキモノデ
アッテ、平時ノ稅制整理ノ場合ニ之ヲ取
置クト云フト戰時ニ其豫備ガ無クナルト云
フ意味ノ御質問デハナカッタカト思ヒマス、
是ハ馬場君ノ御質問ノ御趣意ヲ忖度シテ申
上ゲマスガ、若シ違ッテ居リマスレバ……
戰時ニ於キマシテハ今日カラ之ヲ豫想致シ
テ申上ゲルト云フコトハ甚ダ其體ヲ得ナイ
ト考ヘマスケレドモ、御質問デアルカラ申
上ゲマスガ政府ニ於テハ、相當ニ考慮ヲ致
シタ積リデアリマス、若シ有事ノ際ニ於キ
マシテ少カラザル所ノ歲入ヲ要スルト云フ
コトニナリマスレバ、直接國稅ニ於キマシ
テハ地租モアリマスルシ、又所得稅モアル

ト思フノデアリマス、間接國稅ニ於キマシ
テハ、此度既ニ酒ハ増率ヲ致シ、煙草ヲ値
上ゲ致シマシタケレドモ、其消費ノ狀況ニ
依ッテ是亦相當ノ餘地ガナイトモ限ルマイ
ト考ヘマス、免モ角モ煙草ニ向ッテ稅制
整理ニ依ル處ノ歲入ノ不足ヲ求メルト云フ
措置ニ此度政府ガ出マシタノハ、苟モ稅制
整理ヲ行ヒマス、殊ニ生活必需品ニ對スル
課稅ノ減免ヲ行フト、又免稅點ヲ或ルモノ
ニ付テハ新タニ設ケ、或ルモノニ付テハ之
ヲ引上ゲマシテ社會政策ヲ實行スルト云フ
ニ付テハ相當ノ減少ヲ見ルコトハ勿論デア
リマス、其減少ヲ補填スルノ途ハ何ト申シ
マシテモ生活ノ必需品トハ少シク懸離レタ
ル所ノ嗜好品デアアル所ノ酒煙草ニ向ッテ其
稅源ヲ求ムルト云フコトハ一番普通ノヤリ
方デアッテ、又適當ナルヤリ方デ、誰ガ考
ヘマシテモソコニ稅源ヲ求ムルト云フ結果
ニナルデハナイカト考ヘマシタノデ、先ヅ
普通ノ是ハヤリ方デアッテ、無理ノナイ財源
ノ求メ方デアルト信ジテ、其點ニ向ッテ主モ
ナル財源ヲ求メタ譯デアリマス、戰時ニ於
ケル歲入ノ增收ヲ圖ルニ付テノ具體的ノ方法
ニ付テハ、無論今日ニ於テ論議スベキモノ
デハナイノデアリマス、大體ニ於テイザト
云フ場合ニ於テハ、是ハ相當ニ犧牲ヲ拂ハ
ナケレバナラヌコトハ勿論デアラウト思ヒ
マス、此度ノ整理ニ依ッテ戰時ニ於ケル所
ノ必要ナル所ノ準備ヲ取ッテ仕舞、タト云フ
程ノモノデハアルマイト考ヘマス、其次ニ
ハ社會政策的ノ整理ヲ行ッテ、ソレガ爲ニ多
年國民ガ慣熟ヲ致シ、而モ纏ッテ見レバ國
庫ニ相當巨額ノ歲入ヲ與ヘルガ、之ヲ納稅
者ニ分割シテ見ルト、其負擔ハ零碎ノモノ
デ、而モソレハ多年國民ガ慣熟シテ居ル、
サウ云フモノヲ此度廢シテ國庫ハ纏ッテ居
ル歲入ヲ失フ、其免稅ヲ受ケタル所ノ是等

ノ納稅者ハ零碎ナルモノデアアルニ依ッテ、
必ズシモソレヲ貯蓄ニ當テルトカ、又ハ有
利ノ使ヒ方ヲスルト云フコトヲセズニ濫費
スル虞ガアルト、整理ノ目的ハ完全ニ達成
セヌデハナイカ、隨ッテ寧ロサウ云フ稅ハ
存置シテ置イテ、ソレカラ得ル所ノ收入ヲ
以テ社會政策ノ施設ヲスル方ガ宜クハナ
カッタラウカ、斯ウ云フ御質問デアリマス、
大體ニ於テ私共ノ考ハ國民ガ永ク其稅ニ慣
レテ居ルカラ廢セヌデモ宜クハナイカト云
フ議論モ承ルコトガ厭、アリマス、之ニ付
テハ先日ノ本會議ニ於テモ私ハ申上ゲテ置
キマシタガ、少シク其議論トハ考ヲ異ニシ
テ居リマス、如何ニモ通行稅ノ如キ、或ハ
醬油稅ニ付テ國民ガ其負擔ニ慣レテ居ル稅
ハアラウト思ヒマス、ソレニ向ッテ此度廢止
ノ法律案ヲ出シタノデアリマスガ、織物消
費稅モ同様デアラウト思ヒマス、此負擔ニ
慣レテ居ッテ格別苦痛モナイ、其負擔ガ納
稅者ニ取ッテハ零碎デアアルト云フモノハデ
ス、此免稅ヲ見合ハセル理由ニハ私ハナラ
ヌト思フテ居リマス、先ヅ租稅ノ種類ニ付
テ云ヒマスルト云フト、直接國稅ト云フコト
ニナリマスレバ其納稅者モドチラカト申シ
マスト中産以上ノ階級デアアル、殊ニ營業稅
ノ如キニ至リマシテハ商工業者ト云フ有力
ナル所ノ人ミノ納ムルモノデアリマス、而
シテソレ等ノ人ミハ自分ノ利益ヲ擁護スベ
キ所ノ立派ナ機關ヲ有ッテ居ル、所得稅ニ
付テモ同様デアリマス、自ラ自分ノ負擔ノ
輕減ヲ圖リ、若クハ利益ヲ増進セムガ爲メ
ニ自分達ノ議論ヲ主張スル所ノ機關、機會
等ヲ備ヘテ居リマス、其聲タルヤ直チニ中
央政府ニ達シ、直チニ輿論ヲ動カスニ足ル
ノデアリマス、往々ニシテ其點ニ向ッテハ耳
ヲ傾ケ安イト云フノハ是ハ有リ勝チノコト
デアリマス、其反對ニ零碎ノ稅金ヲ納メテ

居ル所ノ國民、而カモ中産階級以下ノ寧ロ無産階級ニ屬スル所ノ國民……或ハ賣藥稅ヲ納メテ居ル所ノ山間僻邑ニ多ク往テ居ル所ノ人々、サウ云フ人々ハ假令不平ガアリマシテモ、唯今申上ダマシタ通り不平ノ聲ト云フモノヲ一ツノ機關ニ依テ纏メテ、ソレヲ高調スルダケノ勢力モアリマセヌシ、其力モナイ、其機會モナイ、其機關モナイノデアリマスケレドモ、サウ云フ人々ハ必ズヤ心中ニ於テハ相當ナル所ノ不平ヲ持ッテ居ルシ、又負擔ノ輕減ニ向ッテ熱心ナル所ノ希望ヲ持ッテ居ルモノデアルト思ヒマス、其處デ其苦痛ノ聲、不平ノ聲ト云フモノガ中央ニ向ッテ上リマス所ノ其程度ニ依ッテ、苦痛ノ高低ヲ論ズルト云フベキモノデアリマイト思フ、假令サウ云フ場合ガアリマシテモ、或ハ間エマセヌデモ、其心中ニ於ケル所ノ不平ハ是ハ同様デアアル、其苦痛ハ同一デアルト、斯様ニ私共考ヘテ居リマス、其處ニ向ッテハ政治ヲスルモノハ必ズ注意ヲ致シテ、其不平ノ聲ノ未ダ高カラザルニ先立ッテ之ヲ緩和スルト云フコトガ一種ノ社會政策デアリ、又思想善導ノ一ツノ方法デアルト、斯様ナ考ヲ大體ニ於テ有シテ居リマスガ、是ハ馬場君ノ御質問ニハ直接中リマセヌケレドモ政府ノ考ヲ概括的ニ申上ダテ置キマス、第二ニハ如何ニモ其納稅タルヤ各個人ニ執ッテハ如何ニモ零碎ナ所ノ金額デアリマスノデアリマスガ、ソレヲ納メテ居ル人ノ其經濟上ノ地位、生活ノ狀態收入ノ有様ト云フモノカラ見マスルト云フト、私ハサウ零碎デナイト思ヒマス、是ハ國民間ノ階級別ノ負擔……中産階級以上ノ生活カラ申シマスレバ、通行稅ヲ一錢納メル、或ハ賣藥稅ヲ納メル、織物消費稅ヲ納メルト云フ程度ハ如何ニモ零碎デアリマセウガ、之ヲ納メル所ノ階級ニ屬ス

ル人々ノ生活ノ程度カラ申シマスルト云フト相當ノ負擔デアルト思ヒマス、自分ノ嗜好ノ品ヲ節約スルト云フ餘地モ極メテ乏シイ、殆ド切リツメタ所ノ生活ノ必需品ト云フモノニナッテ居リマスカラ、其中カラ一日ニ一錢デモ二錢デモ其爲メニ輕減スルト云フコトハ其人々ノ生活狀態ニ執リマシテハ是ハ確カニソレハ相當ノ福音デアルト斯様ニ考ヘテ居ルノデアリマス、總タ金ヲ國庫ニ收入ヲ致シテ……例ヘバ一千万圓ナラ一千万圓、一千五百万圓ナラ一千五百万圓ノモノヲ以テ、ソレヲ負擔ノ輕減ニ充テズシテ、他ノ社會政策的ノ施設ニ依ッテ同一ノ社會政策ノ趣意ヲ達スルコト、シテハドウデアラウカ、其方ガ能クハナイカト云フ意味ヲ承ッタノデアリマス、是ハ如何ニモ御尤モナ御質問ト思ヒマス、然ルニ此度ノ稅制整理ニ於キマシテハ全體ヲ通ジテ歳入ニ多少ノ増減ハ出來マシテモ著シク増減ヲ爲サザル範圍内ニ於テ行ッタノデアリマス、政府ノ原案ニ依リマスルト云フト、例年八百三十万圓ノ減收ニナルベキ所ヲ、衆議院ノ修正ニ依リマシテ地租一步減ヲ止メタ結果トシテ百三十万圓バカリノ増收ニナリマスガ、是ハ何レモ歳入ニ著シキ増減ノナイト云フ範圍内ニアルト思ヒマス、之ニ依ッテ此度ノ稅制整理ガ増稅ニ陷タト云フコトデハナイト考ヘマス、然ルニ若シ其通行稅ノ廢止ヲ見合ハセルト、ソレニ依ッテ一千百万圓ノ減稅ガ止マリマスカラ、歳入ガ殘リマス、ソレカラ賣藥稅ノ存置ヲ致スト云フト、是モ一千万ノ歳入ガ殘ルト云フコトニナリマス、ソコデ其ノ兩方合セマス、二千百万圓程ニナリマスガ、更ニ其ノ上醬油稅七百万圓、織物消費稅一千五百万圓ト云フモノ、何レ其ノ全部ヲ殘スト云フ譯デアアルマイト思ヒマスガ、

假リニ二三ノモノヲ殘スト云フト、二三千万ノ歳入ガ明カニ此ノ稅制整理ノ範圍ヨリ増加スルコトニナリマス、サウナリマス、是ハ明カニ稅制整理ニ依ッテ増稅ヲ行ッタト云フ結果ニ陷ルト思ッタノデアリマス、ソレガ一ツノ理由デアリマス、ソレカラ社會政策的施設ニアタリマシテモ、是又政府ハ此ノ必要ヲ認メテ居リマス、此タビノ豫算ニ於キマシテモ、健康保險法ノ實施、其ノ他ニ於テモ出來ルダケノコトハ致シテ置キマシタガ、政府ハアレダケノモノヲ以テ決シテ満足スルモノデアリマセヌ、將來財源ノ許ス限リ其點ニ向ッテモ相當ノ施設ヲ加ヘタイト思ッテ居リマス、ソレト稅制問題トハ別ニ考ヘテ此立案ヲシタノデアリマス、第四ノ御質問ハ……ソレカラ第三ノ御質問ノ點ガ殘ッテ居マス、而カモ消費者ガ、免稅ヲ行ッタ結果、貯蓄ニモナラズ、或ハ有用ニソレガ消費モサレズ、浪費、濫費ニ使用シタリシテハ詰ラヌデハナイカト云フコトデアリマスガ、是ハ如何ニモ其通りデアリマス、ソレハ政府ニ於キマシテハ、稅制整理ノ如何ニ拘ハリマセヌケレドモ、本年度ニ於キマシテモ、前年度ニ引キ續キマシテ、全國ニ互ッテ、相當ニ組織的ニ、勤儉力行貯蓄獎勵ノ宣傳ヲ行ヒマス積リデアリマス、此タビノ稅制整理ヲ行ヒマスニアタリマシテモ、一層ソレニ注意イタシマシテ、租稅ノ廢止ニ依ッテ幾ラカ生活ニ餘裕ガ出來ルト云フモノハ、之ヲ濫費ヲセシメザル如クニ、一般ニ貯蓄ノ獎勵ニハ努メル考ヘテ持ッテ居リマス、ソレハ是非シナケレバナラヌト思ヒマス、ソレカラ第四番目ハ、消費稅ヲ折角廢止シタトコロデ、ソレガ必ズシモ消費者ノ利益ニナラヌ場合ガアリハシナイカ、若シサウ云フコトガアルト云フト、政府ハ消費稅廢止ノ目的ヲ十分ニ達セナイト

云フコトニナリハシナイカト云フ、斯ウ云フ御質問、是ハ如何ニモ御尤モナ御質問デアリマス、衆議院ニ於キマシテモ、其點ニ付テハ、シバーノ質問ヲ受ケマシタ、先日貴族院ノ本會議ニ於キマシテモ、左様ナ御質問ヲ受ケタノデアリマス、通行稅ニ付キマシテハ、馬場君モ唯今申サレマシタ通り、政府ハ運賃ノ引上ダニ付イテハ、之ヲ統制スル權限ヲ持ッテ居リマスカラ、其點ニ付テハ心配ハナインデアリマス、通行稅以外ニ、此度免稅ヲナストコロノ租稅、例ヘバ綿織物消費稅、或ハ賣藥稅、醬油稅ノ如キニ至ッテハ、是ハ政府ニ統制權ヲ持ッテ居リマセヌカラ、認可權、若シクハ法制ノ力ヲ以テソレヲ消費者ノ利益ニ歸セシメルヤウナ働キハ出來マセヌケレドモ、ソコニナリマスト云フト、是ハ當業者ノ自由競争ニ俟ツト云フホカニハ、大體方法ハナカラウト思ヒマス、免モ角モ當業者カラ申シマス云フト、其品物ニ對スルコロノ、生産費額ガ、租稅ガ減ゼラレタダケ減少スル譯デアリマス、自然ニ物價ガ下ルベキ善デアリマス、若シソレヲ下ダズシテ、稅ノナクナッタニ拘ラズ、稅ノアル時ト同様ノ價格デ品物ヲ賣取カムトスルモノガ出テ來マシテモ、ソレハ他ノ營業者ガソレダケ生産ガ下ッテ居ルモノヲ利用イタシマシテ稅ヲ引イタダケノ安イ價格デ之ヲ賣ルト云フコトハ是ハ當然ノコトデアルト思フノデス、理論上サウデアアルノミナラズ、實際上ニ於テモ必ズサウ云フ現象ガ生ズルデアラウ、斯ウ考ヘマス、即チ自由競争ノ働ニ依テ、自然ニ其租稅ノ免除ト云フコトガ、消費者ノ利益ニナルヤウニ歸著スルト思ヒマス、尤モ是ハ經濟上ノ狀況ニ依テ消費者ト關係ガアリマスカラ、必ズ常ニトハ申ス譯ニ參リマセヌガ、平均ヲ致シマスレバ、稅ノ下ッタ

時ハ消費者ノ利益ニナルモノト大體左様ニ考ヘテ居リマス、固ヨリ當業者ノ自由競争ノミデモ行キマセヌガ、其點ニ付キマシテハ、是ハ所謂輿論ノ力デ、消費者ノ輿論ノ力ヲ増大セシメテ、當業者ノ不正ナル所ノ價格等ヲ維持シテ、消費者ヲ苦シメルト云フ如キ惡イ手段ヲ之ヲ防止スルコト云フ點ニ向ッテ、輿論ノ喚起ヲ促スト云フコトモ當然デアリマス、大體當業者ノ自由競争ニ依ッテ、此弊害ハ防グルト思フ居リマス、馬場君モ御話シニトリマシタ通り、私モソレハ心配イタシテ居リマスガ、大體差支ナイト思フ居リマス、若シソレヲ強イテ心配ヲ致シマスと云フト、丁度御話ノ通り消費稅ノ免稅ヲ行フ法ガナイト云フコトニナリマス、ソレ程是ハ心配スルニモ及バナイモノデハアルマイカ、斯様ニ考ヘル次第デアリマス

○委員長(子爵前田利定君) 午前ハ是デ一時會ヲ散ジマシテ、午後ハ一時半カラ開會イタシタイト思ヒマス

午後零時十二分休憩

午後一時五十二分開會

○委員長(子爵前田利定君) 是ヨリ開會イタシマス

○馬場一君 私、午前ニ質問ヲ致シマシタ點ニ付テ、大藏大臣ノ御丁寧ナル御説明ヲ得マシタノデアリマスガ、尙ホ少シ申上ダテ置キタイ、第一ノ家屋稅ノコトハ、今日府縣ノ財政ノ實際カラシテ、必ズ家屋稅ヲ賦課スルデアラウ、斯云フコトデアリマス、恐クハサウデアリマセウ、併シ租稅ノ直接國稅ノ改訂ノ上ニ於テ、收益稅ヲ所得稅ノ補完稅トスル以上ハ地方稅ニシテアルニシテモ、全國ニ、全府縣ニ於テ、之ヲ課スルコトニナサレバナラヌト云フコトノ理

論ハ御認メ下サッタデアラウト私ハ思フノデアリマスガ、其點ハ一應尙ホ伺ッテ置キタイト思ヒマス、ソレカラ非常事變ノ際ニ於ケル租稅ノ增收等ノ關係ニ於テノ御用意ニ付テハ、私ノ質問ヲ御付度ニナリマシテハ御答辯デアリマスガ、此點ニ於キマシテハ私ハマダ少シク意見ヲ持ッテ居ルノデアリマスガ、單ニ所謂酒、煙草ノ類ヲ戰時ニ於ケル最モ増稅シ易イ財源ニ考ヘテ居ルカラ、ソレヲ増稅シタカラト云フテ……今回増稅シタカラト云フテ、尙ホ將來非常事變ノ場合ニ於テ、増稅ノ餘地ノナイモノトハ無論思ハヌ、斯ウ云フ御說モアツタヤウデアリマスガ、私ハモウ少シ他ノ考ヲ持ッテ、御質問ヲ申上ダタノデアリマス、例ヘバ今回廢セラレマシタ稅ノ内ニ戰時等ニ於テハ之ヲ設ケラレテモ然ルベキ稅ガアラウ、若クハ戰時ニ於テハ増稅セラレテモ宜シイト云フヤウナ財源モアリハセヌカト思フ、固ヨリ御說ノ如ク社會政策の租稅立法ト云フコトヲ貫徹セムトスルノニハ、綿織物消費稅ノ如キハ廢スルコト云フコトガ確カニ一ツノ御考デアラウト思フ、例ヘバ斯ノ如キ稅ハ平時ニ於テ、之ヲ全ク廢シテ置キマシタナラバ、戰時ニ於テ俄ニ斯様ナ稅ヲ設ケルト云フコトハ實行上ニ於キマシテ、非常ニ不便ナルモノデハナカラウカ、即チ平時ニ於テ輕ク、斯様ナモノハ稅シテ置イテモ、平時ニ於テ稅ヲ取ッテ置キマスレバ、戰時ニ於テノ増稅ガ比較的簡易ニ行ハレル、斯様ナ所ノ意味ヲ以テ申上ダタ積リデアリマスガ、併シ之モ所謂生活必需品デアアル、斯様ナモノニ對シテ課稅ヲスルノハ社會政策のニ宜シクナイ、斯ウ云フヤウナ御意見デアリマスレバ致シ方ナイノデアリマスガ、私が戰時ニ對スル用意ト云フノハ、左様ナコトモ頭ニ入レテ御質問申上ダタ次第デア

リマス、ソレカラ下層階級ノ不平ノ聲ノナイ間ニ政治家トシテハ其適當ナル社會政策ヲ行フコト云フコトガ必要デアアル、思想指導等ノ上カラモ必要デアアル是ハ御意見トシテハ御尤モデアリマスガ、是ガ今回ノ廢稅セラレタル稅全部ニ付テ、斯様ナ御議論ガ必ズ適當デアアルヤ否ヤト云フコトニ付テハ、私ハ疑ヲ持ッテ居リマスケレドモ、是ハ恐ラク意見ノ相違ト存ジマスカラ、別ニ御說明ハ煩シマセヌガ、唯一點尙ホ追加シテ伺ヒタイノハ、今回政府ハ地租ノ一分減ヲ提案セラレ、ソレガ衆議院ニ於テ修正セラレテ、義務教育費ノ國庫負擔金ノ中ニ一千万圓ヲ増加スル、是ニ依ッテ、即チ矢張り地方ノ負擔ヲ輕減スルノデアルカラ、大體ニ於テ差支ナイト云フヤウナ御說明デアッタト思ヒマスガ、是ハ如何ナモノデアリマセウカ、即チ農業者ト商工業者ノ負擔ノ均衡ヲ諍セラレタ上デ、地租ノ一分減ヲ提案セラレタト私ハ想像イタシテ居ルノデアリマスガ、義務教育費ノ國庫負擔金ヲ増サレタト致シマシテモ、是ハ從來ノ分配方法ニ依リマシテ地方ニ配布セラレルト云フコトニナリマスレバ、決シテ此ノ所謂田畑所有者ト申シマスルカ、農業者ノ負擔ノ輕減ニ當ルトハ、勿論限ラナイ、限ラザルノミナラズ、從來ノ分配方法ニ依ッテ分配セラレマスト云フト、必ズ此モ此農村ニ……ト言ヒマスルカ、此市街地邊リノ方面ニ於テ割合ニ分配金ガ多イト云フコトニナリハシナイカ、即チ全體ノ割合カラ申セバ、或ハ地方農村ノ方ニ參ルカモ知レマセヌガ、ソレニシテモ必ズシモ農業者ノ負擔ノ輕減ト云フコトニハ、ドウモナラヌヤウニ考ヘル、或ハ分配方法デモ變ヘマシタナラバ如何ト思ヒマスガ、其點ニ付テ政府ノ御提案ニナッタク商工業者農業者ノ負擔ノ均衡ト云フヤウナ

コトニハ、適確ニ當テヌヤウニ考ヘマサルガ、是ハ過日日本會議ニ於テ御說明モアツタヤウデアリマスガ、尙ホ一應御伺ヒ致シテ置キタイト思フ

○國務大臣(濱口雄幸君) 第一ノ家屋稅ノ問題ニ付キマシテ重ネテノ御質問デアリマシタガ、租稅ノ體系ト申シマスコトハ、是ハ申スマデモアリマセヌガ、國稅ノ中ノ直接國稅ニ付テ申シテ居ルコトガ多イト承知イタシテ居リマス、而シテ其點カラ申シマスト、家屋稅ヲ地方稅ニ據置クト云フコトガ直接國稅ノ體系ヲ、一部整ヘナイト云フコトニナリマシテ、嚴格ニ理論上カラ申シマスレバ、理論上ノ要求ニハ完全ニ一致ヲシテ居ナイト云フコトハ私ハ認メマスガ、ソコデ之ヲ地方稅タラシムルト云フコトニスレバ、國稅ト地方稅ト相俟ッテ體系ガ稍、整フト云フ譯ニナルノデアリマスガ、サウナリマスと云フト、是ハ地租ノ場合ニ於テモ同様デアリマスガ、地方稅ニシマスと云フト、體系論トシテハ餘程力ノ弱イモノニナルト思ヒマス、大體ニ於キマシテ……ソレ故ニ已ニ家屋稅ヲ地方稅タラシメタト云フヤウナコトガ直接國稅ノ體系論カラ云ヒマスト云フト、少シ十分デナイト云フコトハ、私モ之ヲ認メマス、併ナガラ地方稅ニ致シマシテモ、成ルベク直接國稅ノ體系ノ足ラヌ所ヲ補充セシムルト云フ主義ニ致シタイト云フコトニ付テハ、是ハ異論ノナイ所デアリマス、唯完全ニハ參リマスマイト思ヒマス、何トナレバ各府縣ニ於テ假ニ悉ク家屋稅ヲ行フト致シマシテモ、其稅率等ニ於キマシテハ、必シモ全國均一ト云フ譯ニモ參リマセヌカラ、補完稅ト致シマシテハ無論完全デアリマセヌガ、唯大體ニ於テ稍、直接國稅ノ體系ガ整ハヌ所ヲソレデ補フコトガ出來ルト云フ位ノ程度ノモノデナ

イカト思ヒマス、其邊デ満足スルコトデハアルマイカト、斯様ニ思フノデアリマス、ソレカラ今追加サレマシタ所ノ御質問デアリマスガ、地租一分減ヲ廢メマシテ、一分減ヲ見合セマシテ、ソレニ依リテ浮イテ來マシタ所ノ九百六十何万圓ト云フモノ、ソレニ三十餘万圓ノ金ヲ加ヘマシテ教育費ノ一千萬圓ヲ増額スルト、斯ウ云フコトナノデアリマス、如何ニモ御説ノ通り、政府ノ原案ニ於キマシテ地租一分減ヲ實行セムトシマシタノハ、農業者ト商工業者トノ負擔ノ均衡ヲ圖リタイト云フ趣意ニ出デタコトハ勿論デアリマシテ、然ルニ之ヲ廢メマシテ教育費ノ方ニ増額イタシマスト云フト、現在ノ教育費ノ分配ノ標準ニ依リマスレバ、多少地租一分減ヲ實行スル場合トハ其負擔輕減ノ歸著スル所ガ違フテ參リマス、是ハ政府モ左様ニ認メマス、地租一分減ヲヤリマスルコトニ依テ、農業者ノ負擔ヲ輕減シマスル其程度ト、ソレカラ其代リニ教育費ヲ一千萬圓増額シマスコトニ依テ農村ノ振興ヲ圖リマスル其程度トハ、是ハ無論違フト思ヒマス、適確ニハ是ハ一致イタサナイコトハ認メマス、併ナガラ大體ニ於キマシテハ、教育費ノ増額ト云フコトモ現在ノ分配ノ方法ニ依リマスレバ、町村、殊ニ農村ノ振興ヲ圖ルト云フ所ニ結局ハ到達スルモノデアルト思ヒマス、是マデノ地租ノ全體ガ市部ト郡部トニ如何ニ分レテ居ルカト云フコトヲ、地租ノ總額ニ付テ考ヘテ見マスト云フト、市部ノ負擔ニ屬スルモノガ一割二分七厘ト思ヒマシタガ、郡部ノ負擔ニ屬シテ居ルモノガ八割七分三厘デアリマス、是ハ地租ノ總額ノ歩合デアリマスガ、今度ハ田畑ダケニ付テ申シマスと云フト、其場合ハ多少變テ參リマシテ、田畑ニ付テ申シマスと、總額五千五百餘萬圓デア

リマスガ、市部ノ負擔ニ屬スルモノガ九十八萬圓バカリ、郡部ノ負擔ニ屬スルモノガ五千四百九十萬圓バカリ、其歩合ハ市部ニ於テハ一分八厘、郡部ニ於テハ九割八分二厘ト、斯ウ云フ具合ニナッテ居リマス、然ラバ教育費ノ方ノ是マデノ分配ノ標準ニ依リマス所ノ市部ト町村トニ對スル割合ハドウナッテ居ルカト申シマスと云フト、唯今具體的ノ數字ハハッキリ覺エテ居リマセヌガ、大體記憶ニ依テ申シマスと云フト、教育費ガ市部ニ分配セラレマシタ所ノ金額ハ大體一割少シ弱ト思ッテ居リマス、町村ニ分配サレマシタ所ノ金額ハ九割少シ超エテ居ルト思ッテ居リマス、此具體的ノ數字ハ後カラ申上ダマスガ、左様ニ致シマスルト云フト、田畑ノ場合ト比較スレバ、教育費ノ場合ハ市部ノ方ヘ多ク行ッテ居リマス、地租ノ總額ノ方カラ申シマスと、是ハ宅地ノ入ッテ居ル關係デアリマスガ、地租ノ分配ノ方ハ教育費ノ分配ノ方ヨリ市部ノ方ヘ多ク行ッテ居ルト、斯ウ云フコトニナッテ居リマス、要スルニ教育費ニ致シマシテモ、地租ニ致シマシテモ、一割以內ノモノガ、市部ニ歸シテ、残りノ九割強ノモノガ郡部ニ歸シテ居ル、是ダケノコトハ爭ハレヌヤウデアリマス、併ナガラ御説ノ通り假令郡部ニ歸シテ居リマスモノデモ、ソレガ地租デアリマスと云フト、農業者ノ負擔ニナッテ居リマスガ、教育費ノ場合デアリマスと云フト、農業者ノ負擔ニ屬シテ居ルモノノ負擔デアリマセヌ、郡部ニ住ムトコロ者ノ商工業者齊シク此負擔ヲ受ケテ居ルコトハ、是ハ申スマデモナイ所デアリマス、併シ大體ニ於キマシテ、郡部ト申シマスレバ、農民ガ多イシ、又地租ノ負擔ガ多イデアリマスカラ、大體カラ見マスと云フト、地租ノ一分減ト云フト、教育費ノ増額ト云フト

ト、ハ其歸著スル所ニ於テ稍、相等シイモノデハナイカ、其效果ガ大體相等シイモノデハナイカト、斯様ニ考ヘテ居リマス、無論ソレハ絕對ニハ同一デハアリマセヌコトハ勿論デアリマスガ、先ヅ大體農村ノ振興ト云フ點カラ申シマスと云フト、略、其目的ヲ達スルコト云フ點ニ於テハ相等シイモノデアラウト、斯様ニ考ヘテ居ル次第デアリマス

○藤山雷太君 此營業稅ノ方デ、法人ヲ百分ノ二、六、個人ヲ百分ノ一、八トアリマスガ、是ハ大體先刻カラノ御話ニ依リマスと、營業稅モ幾ウカ減ジテヤル、五百萬圓位ノ減稅ヲシテヤルト云フコトカラ、斯ウ云フ率ガ出タ譯デアリマスガ、又何カ三六、二八トカ云フ數ハ妙ナ風ニナッテ居ルノデスガ、此點ヲ伺ヒタイ

○政府委員(黑田英雄君) 是ハ法人ト個人トニ於キマシテハ、大體カラ申シマシテ個人ノ收益ト云フモノニ付キマシテハ勤勞ガ加ハリマスル分ガ相當ニアルヤウニ考ヘルノデアリマス、法人ノ方ハ大體カラ申シマシテ、其大部分ヲ資產ノ所得ト云フコトガ出來ルヤウニ考ヘルノデアリマスルカラ、其點ニ付キマシテ多少ソコニ補完稅ト致シマシテ稅率ヲ以テ變ヘルト云フコトガ適當デ、理論上カラ申シマシテモ、多少適當デハナカラウカト云フ風ニ考ヘテ居ルノデアリマス、向ホ一面ニハ御尋ニナリマシタ通り法人ノ稅額並ニ個人ノ稅額ニ付キマシテ、相當ニ何レモ輕減ヲシテ行ク、大體ニ於テ全體トシテノ百分ノ八ヲ減ズル結果ニ相成ッテ居ルノデアリマスガ、左様ニ兩方ノ現在ノ狀況ヲ見マシテ、ソレヨリ幾分輕減ヲスルコト云フ趣旨カラ致シマシテ丁度三六、二八ト致シマスと云フト、大體百分ノ八ヲ減ズルコト云フ風ナ結果ヲ得マス、

從テサウ云フ風ナ率モ起リマシタ次第デアリマス

○藤山雷太君 サウシマスとデスネ、今商業會議所アタリデハ今度ノ改正ニ依テ非常ナ營業稅ハ適當ノ負擔ヲ受ケル、政府デハソレヲ減稅ヲシテヤルト、斯ウ云フ行違ヒガアリマスガ、若シ今年ノ營業稅ノ收入ニ於テ、今ノ收入豫算ヨリモ以上ニデモナリマシタ場合ニ於テ、本年度アタリデハ此率ヲ減ジテモウ少シ安クシテヤルト云フ御考ガアルノデアリマスガ

○國務大臣(濱口雄幸君) 商業會議所等ニ於キマシテ、唯今御説ノ通り政府ハ減稅ナドト云ッテ居ルケレドモ、却ッテ増稅ニナルト云フ計算ヲ致シテ居ルノデアリマスガ、是ニ付テハ色々ノ理由ガアラウト思ヒマス、既ニ政府委員カラ説明ヲシマシタカ存ジマセヌガ、大體ノ理由ハ斯様ナコトデアアルマイカト私思ッテ居リマス、ソレハ現在ノ營業稅ノ稅額ニ對シテ、此度ノ營業稅益稅ガ減稅ニナル、若クハ増減ニナルト云フノハ、何年度ヲ標準ニシテ増稅ト云フカト云フコトニ付テ、或ハ起算點ガ一致シテ居ナイノデハナイカト思ヒマス、政府ガ申シマス所ノ減稅ニナルト云フ其根據、何ニ對シテ何時ノ年度ニ對シテ減稅ニナルカト申シマスと、ソレハ大正十四年度ノ豫算ニアル所ノ營業稅ノ稅額、其稅額ニ對スル減稅ト云フ意味デハアリマセヌ、又最近ノ實績タル所ノ大正十三年度ノ營業稅ノ實績ニ比シテ減稅ト云フ意味デモアリマセヌ、即チ此制度ヲ改正セズシテ現在ノ所ノ稅法ノ儘デ行ケバ、大正十五年度ニ於テハ幾ラノ收入ヲ得ルデアラウト云フコトヲ既往ノ實績ニ鑑ミテ見積リマシテ、即チ稅制整理ノナイ場合ニ於ケル所ノ十五年度ノ收入見込額、ソレニ對シテ或ハ五百萬或ハ四百萬ノ

減税ニナルト云フ、斯ウ云フ見積リデアリ
マスカラ、十四年度ノ豫算ニ對スルト等シ
イカ或ハ増税ニナルカ知レナイガ、是ハ營
業收益税ノミトハ限リマセヌ、總テノ税制
ニ付テ、税制整理ナカリセバ十五年度ニハ
幾ラノ相違ヲ生ズルカト云フ、ソレニ對シ
テ假定ヲ致シマシテ、ソレニ對シテ増税減
税ト申シテ居リマス、或ハ其點ニ對シテ多
少民間ノ計算ト其仕方ガ違フテ居ルノデハ
ナイカ、是ハ念ノ爲ニ申シテ置キマス、而
シテ政府ノ計算ニ依レバ四百五十萬ノ減
税ニナルト云フコトガ、實行ノ結果ニ於テ
ソレ以上ノ收入ノ出タ場合ニハ、ソレダケ
ハ政府ノ見込ミ違ヒデアッタト云フコトデ、
此税率ヲ減少スルト云フ、即チ大正十六年
度ノ若クハ十七年度ノ豫算ヲ編成スル時ニ
減税ヲスルカ、斯ウ云フコトデアリマス、
是ハ營業收益税ノ施行ハ法律ニアリマス通
リ大正十六年度分ヨリトナッテ居リマス、
ソレカラ十五年分ハ營業稅ノ規定ヲ適用イ
タシマシテ計算ヲシテ、ソレカラ百分ノ八
ヲ減少致シマスカラ、増税ナリ減税ナリト
云フ疑ハ生ジマイト思ヒマスガ、若シ増税
ニナルト致シマシテモ、十六年度ノ施行ノ
結果ヲ見ナケレバ分リマセヌ、十六年：…
十七年ノ營業收益税ノ收入ヲ減ズルカト斯
ウ云フコトニナリマス、大分是ハ先キノ
コトデアリマスガ、サウナリマス、十六
年度一箇年ノ間ノ營業收益税法施行ノ結果
ガ假リニ增收ヲ生ジタト致シマシテモ、増
收ノ原因ガ如何ナル原因デシタカ、ソレ
ハ政府ノ見込違ヒノ結果サウ云フ增收ヲ生
ジタカ、或ハ政府ノ見込ガ正確デアッタガ、
經濟界ノ變動ノ結果自然增收ノ結果サウ云
フ增收ヲ見タノデアルカ、事後ニ於テ區別
ヲシテ計算ヲスルト云フコトハ頗ル困難デ
アラウト思ヒマスガ、ソレハモウ其時ニ至

リマシテ別ニ考ヘルコトニ致シマス、今日
增收ヲ生ジタナラバ營業稅ノ：營業收益
税ノ收入ヲ減少スルト云フ方ニ向ケルカト
云フ御質問ニ對シマシテハ、私少シ御答ヲ
スル時期ガ早イト思ヒマス、其時ニ於テ更
ニ申上ゲルコトニ致シマス

○藤山雷太君 私ハモウ一應御尋ヲシテ見
タイト思ヒマス、此營業稅ヲ非常ニ上ゲル
ト云フ大變我々商業會議所ナドデ申シテ
居リマスガ、收税ノ場合ニ於キマスル爭デ
アリマスガ、此爭ハ此度ノ矢張り此個人ノ
營業ニ對シテハ矢張り同ジク爭ガ起ッテ隨
分面倒デアラウト思ヒマス、而シテ此帳簿
デモ完全ニ設ケルダケノ大商店ナリ或ハ法
人ナラバ其憂ハアリマセヌガ、小サナ商賣
人ハ其點ニ至ルト非常ナ面倒デアリマスガ
ラ、今ヨリモ其爭ヲ無クスル途ヲ此場合御
考ヘナリマシテ、此收益ヲ査定スル上ニ
何カ御工夫ガアルノデアルカ、ソレヲ一ツ
伺ヒマス

○國務大臣(濱口雄幸君) 現行ノ營業稅法
ニ對スル非難ノ要點ハ私ハ二箇條アルト思
ヒマス、第一ハ外形標準ヲ採ルガ爲ニ營業
ノ收益ニ比例シナイト云フコトガ抑、根本
ノ非難ノ點デアリマス、第二點ハ御説ノ通
リ徵收ノ方法ニ付キマシテ、稅務官吏ト營
業者トガ接觸ヲスル機會ガ多ク、ソレガ爲
ニ煩雜ニ堪ヘヌト云フノガ、第二點デアラ
ウト思ヒマス、其二ツヲ出來ルナラバ同時
ニ改革ヲ致シタイト思ッテ、色々講究ヲ致シ
タノデアリマス、第一ノ根本的ノ非難ニ對
シテハ、此度ノ外形標準ニ依ルコトヲ廢シ
テ、營業純益ヲ課稅標準トスル、其收益稅
ニ改メタト云フコトニ依テ、理論上、私ハ
除イタモノト思ッテ居リマス、第二點ノ非難
ニ對シテハ是ハ中々困難ナ問題デアリマス、
ソレデ其點ニ付テハ是迄ノ營業稅法ノ施行

ノ場合ヨリモ幾分カ當業者ノ煩雜ト苦痛ヲ
輕減スルコトニナルカト云フ御質問ナラバ
實ハ是ハ甚ダ難シイコトデアリマスガ、少
ナクモ現在ヨリモ當業者ノ煩雜面倒ノ程
度ヲ増スコトハナイト思ッテ居リマス、現在
ヨリハ：然ラバ少シモ變ラヌカ、現在ヨ
リモ當業者ノ煩雜、非難ヲ減少スルコトニ
ナラヌカト申シマス、是ハ具體的ニハッ
キリ此點ニ於テ斯様ニ減少スルト云フコト
ヲ御答スルコトハ出來マセヌノデアリマ
ス、要スルニ稅務官吏ハ是マデ所得稅ノ調
査ニ付テ相當ノ經驗ヲ持ッテ居リマス、從
テ營業收益稅ガ即チ營業上ノ純益ヲ課稅標
準トシテ之ヲ取ルト云フコトニ致シマシタ
ニ付テ、直チニ營業者ノ純益如何、斯ウ云
フ調べヲスルコトニナリマシタ場合ニ於
テ、或程度マデ現在ノ所得稅法ノ調査ニ依
テ得テ居ル知識、經驗ト云フモノヲ利用ス
ルコトガ出來ルト思ヒマス、其程度ハ具體
的ニハハッキリ申上ゲルコトハ出來マセヌガ、
幾分是ハ當業者ノ非難苦痛ヲ減少スルコト
ニナルノデアアルマイカト云フヤウニ考ヘテ
居リマスガ、尙ホ實際稅法施行上ニ於キマ
シテ、出來得ル限リ其點ニ付テハ注意ヲ致
シマシテ、適當ナル方法ガアリマシタナラ
バ當業者ノ苦痛ヲ出來得ル限リ輕減シタイ
ト云フコトヲ考究スルコトニ致サウト思ヒ
マス

○添田壽一君 私ハ餘リ御話申上ゲナイ積
リデゴザイマシタガ、此間申上ゲタイト思
フノヲ控ヘマシタ點ガ一ツ、今日馬場君ヘ
ノ御答辯ニ依リマシテ少シク私ハ疑ヒヲ生
ジマシタ點モアリマスカラ、極ク簡略ニ三
ツノ點ニ付テ大藏大臣ニ御伺ヒヲ致シタイ
ト考ヘマス、此前三點ガ間接稅ト直接稅ノ比
例ニ付イテ何カ政府ハ御考ガアラレナイカ
ト云フコトヲ御伺ヒ申上ゲマシタ、其目的

ハ詰リ私ハ間接稅ト云フモノニ餘リ重キヲ
置カレルト云フコトハ、大體租稅ノ性質カ
ラモ宜クナイシ、社會政策ノ上カラモ宜ク
ナイシ、詰リ是ノミニ：是ハ無論サウ云
フコトハアリマス、マイト思フケレドモ、此
消費稅ニ多ク此財源ヲ求メラレルト云フコ
トハ見合サレタ方ガ宜クハナイカト云フ意
味カラ御伺ヒヲ致シタノデアリマス、詰リ
此消費稅ハドウシテモ下層社會ガ餘計拂フ
ノデゴザイマス、鹽ヲ管メルト云フコトニ
致シマシタ所ガ、是ハドウモ金持ガ餘計嘗
メルト云フコトハ出來ナイノデアリマシテ、
詰リ鹽ハ專賣ニナッテ居リマスカラ別ナ問
題デスガ、例ヘバ消費稅ト云フコトニ關シ
テ考ヘマスレバ、是ハ大概貧富同ジヤウナ
負擔ヲスルモノデアリマス故ニ：同ジヤ
ウナ消費ヲ致シマスガ故ニ、餘リ是ノミニ
稅ガ多クカ、リマス、ト云フコトハ、詰リ細
民ト云フモノニ非常ニ重クナルト云フ嫌ガ
アリマス、ト云フノガ一ツ、ソレカラ單純
ニ租稅ノ上カラ見マシテ、當テニナラナイ
ト云フ點ガ無論一太缺點デアラウト思フノ
デアリマシテ、詰リ時ノ景氣ニ依リマシテ
非常ニ増減ガ激シイト云フコトハ、是ハ大
藏大臣モ無論痛切ニ御感ジニナッテ居ラレ
ル所デアラウト信ジマスルガ故ニ、餘リ、
此方ニ：即チ消費稅ノ方ニ重キヲ御置キ
ニナルト云フコトハ、私ハ徵稅ノ基礎ト云
フカ、即チ國家ノ財源ヲ確實ナラシムルト
云フ上カラ如何アランカト思ヒマス、故ニ、
寧ろ私ハ社會政策ニ重キヲ置カレマスルト
云フ現内閣ノ御方針カラ言ヘバ、確實ナル
財源ヲ得テ、財政ノ基礎ヲ鞏固ナラシム
ルト云フ御方針デ御在リニナリマスナラ
バ、段々此消費稅ノ方ヲ減ジテ御出デラレ
ルト云フ御方針ヲ御採リ下サルト云フコト
ハ出來ナイノデアリマセウカト云フノガ、

一ツノ御尋ネデアリマス、ソレカラ跡二ツハ先刻馬場君ト大藏大臣トノ應答ノ上カラ疑ヲ生ジタノデアリマスガ、詰リ平時、戰時若クハ非常時ニ於テ國家ノ財源ト云フモノガ確實ニ得ラレルト云フコトノ上ニ付テ、大ニ考慮ヲ拂ハナケレバナラヌト云フ成程馬場君ノ御説ニ私ハ非常ニ敬服イタシマス、其點カラ考ヘマスレバ詰リ非常ノ際ニ於テ、國家ノ歲入ト云フモノガ餘リ減少シナイト云フソコニ一ツノ税目ト云フモノガナケレバナラヌト思フ、ソレニハドウシテモ馬場君ノ唱ヘラレタ財産稅ト云フモノノ必要ガ即チ生ジテ來ル譯デアアルノデ、其財産ノ中ニ於テ最モ所謂確實性ヲ帶ビテ居リマスルモノハ申ス迄モナク土地稅、地租デゴザイマス、チヨット地租ト云ヒマス我國ニ於テハ是ハ先刻モ話シタコトデアリマスガ、地租ト云フト農業稅ノヤウニ考ヘマス、私ハ大間違デアルト思ヒマス、地租ト云フト昔ハサウデアッタカ知レマセヌガ、今日最早地租ト云フモノハ、殊ニ貸賃價格ト云フコトニ依リテ徵收スルト云フ政府ノ方針デアリマスレバ、地租ト農業稅ト云フコトハ離シテ考ヘナケレバナラヌコトハ申ス迄モナイノデアリマス、必ズシモ此農村振興ト云フコトガ大變流行リマスケレドモ、大變結構ナコトデアリマスガ、其爲メニ地租ト云フ問題ハ何ダカ少シ其問題ニ對シテ都合ノ惡イヤウナ感ジヲ生ズルコトガアリマシタナラバ、ソレハ甚ダ穿鑿ノ足ラナイノデアリマシテ、ドウシテモ、地租ト云フモノガ：：苟モ體系ヲ單一所得稅ト云フモノニ御置キニナラヌ政府ノ御方針デアリマス以上、土地ト家屋ト云フモノガ主ナル補完稅トナラナケレバナラヌノデアリマスガ、是ハ家屋ノコトハ既ニ地方ニ御譲リニナリマシタカラ已ムヲ得マセヌケレドモ、先ツ政

府ハ此體系ノ立方ニ於テハ、土地ト云フモノガ主ナル體系トナツテ參タクト云フコトハ申ス迄モナイノデアリマス、ソコデ伺ヒタイノハ、此地租ト云フモノニ重キヲ置カナケレバナラヌト云フ點ニ對シマシテ、同時ニ多少矢張り産業政策ト申シマスガ、社會政策ト申シマスガ、御加ヘ下サルコトガ必要デアルト思フノデアリマスガ、就中矢張り私が日本ノ農業ノ上カラ、又國民食物供給ノ上カラ、成ルベク農作地ノ負擔ヲ輕クシテヤルト云フノガ必要ダト思ヒマスガ故ニ、ソコデ伺ヒタイノハ、此貸賃價格ニ依リテ地租ヲ御取リニナルト云フ制度ニナリマシタガ、更ニ進ンデ段々調査ノ時間ガアリマシタナラバ、此生産ニ用ユル土地ト然ラザルモノトノ間ニ稅率ヲ區分ナサルト云フヤウナコトハ出來マセヌカ、即チ生産ガ謂ハバ一番早イノガ農業地デアリマス、農業地トナツテ居ルガ如キモノト、唯徒ラニ居住イタシテ居ルトカ、甚シキハ所謂生活ニ必要ナル以上ニ、宅地トカ庭園地トカ云フ如キモノトノ間ニ稅率ノ差ヲ御設ケニナルト云フコトノ御考ガアリマスカト云フコトヲ第二ニ伺ヒマス、第三ハ先刻馬場君ノ御尋ニナリマシタ非常ノ際ノ備ヘト云フ外ニ、平時ニモ多少ノ此租稅所得ニ對シテ國家ノ經費支辨ノ上カラ所謂伸縮力ノ要ルト云フコトガアラウト思ヒマス、詰リ一朝戰時ト云フ問題ヲ離レマシテ、其點ニ付テハドノ稅ヲ御用ヒニナル積リデアリマスカト云フコトガ第三ノ御尋ネデアリマス、御承知ノ通り一番此伸縮力ニ富ンダル稅トシテ、又ソレヲ巧ミニ財政ノ上ニ利用イタシテ居リマスルノガ英吉利ノ所得稅カト思フノデアリマス、詰リ大藏大臣ガ稅率ヲ變ヘズニ、唯本年ハ「フランド」ノ中何「ペン」ヲ除キマスとか、又前年ノヨリハ何「ペ

ンス」加ヘマスと云フコトニ依リテ、十分ナル此伸縮力ヲ所得稅ニ與ヘテ居ルノデアリマス、サウ云フ點ハ我が國ニ於テモ御考ヘ下サツタ方ガ、非常ニ此歲計ヲ御立テニナル上ニ於テ便利デアアルマイカト思フノデアリマスルガ故ニ、此點ニ付キマシテ、我が國ニ於テモ、所得稅ヲ英國流ニ御利用ナサルト云フ御見込ハハナイカト云フノガ、第三點デアリマス、ソレダケ御尋ネヲ致シマス○國務大臣(濱口雄幸君) 第一ノ御尋ネハ直接國稅ト間接國稅ノ比率ノコトニ付テ將來ノ方針ヲ御尋ネニナツタヤウニモ承リマシタガ、左様デゴザイマシタラウカ、其積リデ御答ヲ致シマス、若シ間違テ居リマスレバ御匡シテ願ヒマス、主義トシテ直接國稅ト消費稅トハ如何ナル比率ヲ可トスベキヤト云フコトハ、各國各其事事情ヲ異ニシテ居リマスカラ、一概ニ申セヌコトデアラウト思ヒマスケレドモ、大體カラ申シマスルト云フト、添田君ノ御説ノ通りデ、直接國稅ノ收入ガ割合ニ間接國稅ノ收入ヨリモ多キニ至ルコトヲ希望イタシマス、日本ニ於キマシテ此兩稅ノ收入ノ比率ヲ考ヘマスルニ、マダ直接國稅ノ收入ノ方ガ思フヤウニ發達ヲシテ居ナイノデアリマス、其歩合ヲ取テハアリマセヌケレドモ、未ダ私共ノ密カニ考ヘテ居リマスル所ノ程度ニハ達シテ居ナイト思ヒマス、御承知ノ通り地租ハ定額稅デアリマシテ、殊ニ法定地價課稅標準トシテ居リマスルガ故ニ、數十年ニ亘テ其收入ハ殖ヘマセヌ、依然トシテ七千萬圓ヲ持シテ居ル、所得稅ハ之ニ反シテ明治二十年ノ施行初年ニ於キマシテハ僅カニ百万圓デアリマシタガ、今日ハ二億ト云フ額ニナツテ、非常ニ發達ヲ遂ゲテ居リマスル、マダ其發達ノ程度ハ十分トハ申サレマイカト思ヒマス、營業稅ニ於キマシテハ明治三

十年ノ施行初年ニ於キマシテハ三百萬カ四百万圓デアッタト思ヒマスルガ、今日ハ確カ六千万圓ヲ突破シテ居ルト云フ狀況デ、段々發達ヲシテ參テ居ルノデアリマスケレドモ、其發達ノ程度ガマダ十分トハ考ヘラレマセヌ、其發達ノ程度ガ十分デナイガ故ニ、直接國稅ヲ増率ヲ致シ、或ハ新稅ヲ起スト云フ考ハ無論持テ居リマセヌ、要スルニ直接國稅ノ發達ガ未ダ十分デナクシテ、國幣ノ少カラザル部分ト云フモノヲ、間接國稅ノ收入ニ仰イデ居ルト云フノハ、詰リ我が國ノ資本ノ集積ト申シマスガ、産業ノ發達ト申シマスガ、十分デナイ證據デアラウト思ヒマス、世間ニハ種々ノ議論ガ此點ニ付テアルヤウデアリマス、或ハ有產階級或ハ無產階級ト云フヤウナ議論モアリマスルシ、資本主義トカ、或ハソレニ對スル反對ノ議論モ聽キマスケレドモ、要スルニ我が國ニ於キマシテハ直接國稅ノ未ダ十分ニ發達シテ居ナイト云フコトハ、即チ生産事業ガ未ダ十分ニ興テ居ナイト云フ其反影デアラウト思ヒマス、之ヲ人爲ヲ以テ直接國稅ノ歩合ヲ多クシ、間接稅ノ歩合ヲ少クスルト云フコトハ、是ハ出來ナイコトノヤウニ考ヘマス、一ニ其當時ノ生産力ノ狀態並ニ經濟ノ事情、國民生活ノ實況ニ照シマシテ、ドウ云フ稅ハ此稅率ニスル、ドウ云フ稅ハ斯ウ云フ組織ニスル、ドノ稅ハ之ヲ廢スル、ドノ稅ハ之ヲ減ズル、或ハ増スト云フコトヲ極メル外ニハ、標準トスベキモノハ別ニ私ハナイヤウニ考ヘテ居リマス、又世間デハ社會政策ト申シマスレバ、直チニ消費稅ノ減免ノミヲ意味スルヤウニ論ゼラルル傾ガアルヤウデアリマスガ、政府ノ考ニ依リマスルト云フト、社會政策ヲ行フト云フコトハ、必シモ消費稅ノ減免ノミデハナイ、直接稅ニアリマシテモ社會政策ヲ行フ所ノ餘

地ガアリ、又其必要ガアルコト考ヘマス、此度政府ノ計畫シマシタ所ノ所得税ノ免稅點ノ引上、或ハ地租ノ免稅點ノ設定、相續税ニ於ケル免稅點ノ引上ダノ如キ、即チ直接國稅ノ改廢ニ依テ一ノ社會政策ヲ行フ積リデアリマス、更ニ申シマスルコト云フト、社會政策ノ實行ト云フコトハ、必シモ消費税ノ減免ニ限ラナイ、是ハ直接税間接税ヲ通ジテ等シク行ハレルモノデアアル、固ヨリ其程度ハソレハ消費税ノ方ニ多イノデアリマスガ、直接税ニ於テモ社會政策ヲ行フ餘地ガアルノデアリマス、是ハ其範圍ガアルト云フコトヲ申上ダルニ過ギナイノデアリマス、第二點ハ地租ノ課税標準ヲ賃賃價格ニ改ムルト云フ以上ハ、其土地ノ用途ニ依テ税率ヲ異ニスルニ云フ必要ハナイカ、即チ耕作ニ使用サレテ居ルト云フ如キ、生産の事業ニ使ハレル土地ニハ比較的輕イ税ヲ課シテ、サウデナクシテ寧ろ享樂のニ使ハレテ居ル土地ニ對シテハ重イ税ヲ課スルト云フコトハ出來ヌカ、斯ウ云フ御趣旨ノヤウデアリマスガ、是ハ理論トシテハ私ハ添田君ノ御説ヲ傾聴イタシマス、傾聴イタシマスガ、之ヲ國稅トシテ實際ニ適用スルニ於テハ甚ダ困難デアラウト思ヒマス、或ハ地方税ト致シマシテ間地稅ノ如キモノヲ設ケテ、享樂のニ使テ居ル土地ニ特別ナル税ヲ課スルト云フ上ニ於テ、特ニ間地稅ノ如キモノヲ設ケテ、享樂のニ使テ居ル土地ニハ其税率ヲ高クスル、同じ宅地ノ中デモ住宅ニ使テ居ル土地トカ、或ハ庭園ニ使テ居ル土地ヲ、ソレニ依テ税率ヲ異ニスルト云フコトハ、餘程ハ難カシイヤウニ考ヘマス、地方税トシテハ是ハ別ノ問題デ、新タニ研究スベキモノデアラウト思ヒマス、第三點ハ租稅ト伸縮力ニ付テ御尋ネニナツタノデアリマス、英國ノ所得稅ハ私

ハ詳細ニ存ジマセヌケレドモ、此度ノ總テノ稅法……稅制ノ整理ニ於テ負擔ノ公正ヲ圖ツテ置キマスルニ云フコトガ、即チ有事ノ際ニ於テモ、又無事ノ際ニ於テモ伸縮力ヲ強カラシムル所以デアルト云フ、斯ウ云フ考ヲ以テ整理ヲ致シタノデアリマス、例ヘバ地租ニ付テ申シマスルコト云フト、御承知ノ通り現在ノ法定地價ハ無論ハ不公平ナモノデアリマス、其不公平ナル地價ヲ課税標準トシテ、田畑ニ付テ申シマスレバ、地價百分ノ四箇年ト云フモノヲ課税ヲ致シテ居ル、サウ云フ狀態ノ下ニ於テ、例ヘバ一朝有事ノ時ニ於テ其税率ヲ引上ダマスツト、元來不公平ナルモノハ更ニ不公平ニナリマスカラ、地租ノ増率ハ現狀ノ儘ニ於テハ到底行ハレナイモノデアラウト思ヒマス、又行フノハ非常ニ困難デアルト思フノデアリマス、之ニ反シテ若シ此度ノ政府ノ計畫ニ於ケルガ如クニ地租ノ課税標準ヲ賃賃價格ト云フモノニ致シテ置キマスルコト云フト、是ハ收入ニ比例スル所ノ稅デアリマスルガ故ニ、負擔ノ公正ヲ期スルト云フコトニナリマス、其負擔ノ公正ヲ圖ツテ置キマスルコト云フト有事ノ場合ニ於テモ是ハ私ハナルトハ申シマセヌカ、或ハ必要ガアツタナラバ増稅ヲヤル時ニ、現在ノ儘ヨリモ却テヤリ易クナルト云フコトモアラウト思ヒマス、又有事ノ場合ニ限リマセヌ、平常ノ場合ニ於テモ土地ノ收益ガ多クナルニ從ヒマシテ賃賃料ハ増加スルモノデアラウ、即チ現在ノ法定地價ノ代リニ土地ノ賃賃價格ニ付テ地租ヲ取ルト云フコトニ改メマスルコト云フコトカラシテ、平常ノ場合ニ於テモ地租ト云フモノニ對シテ一ツノ伸縮力ヲ與ヘル效能ガアラウト思ヒマス、是ハ地租ニ限リマセヌ、營業稅ニ付テモ同様デアリマス、現在ノ如クニ資本金額ガ同ジケレバ收益ノ

如何ニ拘ラズ同額ノ營業稅ヲ課スル、賣上高ガ同ジケレバ利益ノ如何ニ拘ラズ同額ノ稅ヲ課スルコト云フ如キ現在ノ法律ノ下ニ於テハ一朝有事ノ際ニ於キマシテ之ニ増稅ヲ行フト云フコトハ甚ダヤリ難イノデアリマス、然ルニ此度ノ如クニ此課税標準ヲ改メテ外形標準ノ如何ニ拘ラズ、營業純益ニ應ジテ課税スルコト云フコトニ改メテ置キマスルコト云フト、他日必要ノ起ツ場合ニ於キマシテハ、此税率ヲ高メルト云フコトモ比較的容易ク出來得ルコトノヤウニ考ヘマス、即チ此タビノ稅制整理ハ平常ノ場合ニ於テモ從前ノ場合ヨリモ伸縮力ガ強クナル、有事ノ際ニ於テモ増稅ヲ行フニ比較的容易ニナツタモノデアアルマイカ、斯様ニ考ヘテ居リマス

○西野元君 私モ此稅制整理ノ點ニ付キマシテ二三伺ヒタイコトガゴザイマス、先ヅ第一ニ此稅制整理ノ御方針ト將來ノ財政計畫ト關係ノアル點ニ付キマシテ一點伺ヒタイ點ガゴザイマス、ソレハ此地租一分減ノ問題デゴザイマス、昨日デアリマシタカ、一昨日デアリマシタカ、本會議ニ於ケルカタカノ御質問ノ中ニ政府ハ今回ノ稅制整理ヲ機會ニ所謂一分減ナルモノヲ實行サレナカッタト云フモノハ、是ハ將來ニ打切ル考ヘデアルカ、斯ウ云フ風ノドナタカノ御質問ニ對シマシテ、總理大臣ヨリ別ニ一分減ヲ打切ル考ヘハナイ、將來或ハ財政ノ餘裕ヲ得タナラバ一分減ヲ實行スルカモ知レヌト云フヤウナ御答デゴザイマシタ、私ハ總理大臣ノ御説明ヲ茲大藏大臣ニ願フ譯デハゴザイマセヌガ、此點ニ付キマシテ聊カ疑義ヲ生ジマシタノデ政府ノ御方針ヲ伺ツテ置キタイト存ズルノデアリマス、元來地租ノ輕減ト云フヤウナコトハ年來ノ懸案デアリマシテ大分沿革ノアル問題デゴザイマス、今回政府ノ御提案ノ中ニモ整理案ノ重要ナル一部ヲ占メテ居タ問題デアリマシタ、將來ノ政府ノ御方針ト云フモノハ延ヒテハ我が財政計畫ノ將來ノ上ニ影響ノアルコト存ジマスノデ更ニ疑ヲ質シテ置キタイト考ヘル次第デアリマス、是ハ此間中々新聞等ニ出テ居リマス、衆議院ニ於ケル御問答等モ新聞ニ出タコトデアリマシテ、ヨク分リマセヌガ散見イタシテ居リマス、從來現内閣ノ諸公ガ地租ノ二分減ヲ主張セラレタ、併シ今回ハソレガ一分減ニナツタト云フヤウナコトニ付キマシテ、是ハ最近ニ於ケル震災ノ結果日本ノ財政狀態ガ非常ニ大激變ヲ來シタノデアルカラ、元ノ二分減ガ一分減ニ變タ、サウ云フ意味デ現下ノ狀況ニ徴シテ適當ノ案ヲ出シタト云フヤウナ御説明ガアツタヤウニ考ヘマス、是ハ財政計畫トシテ又當然ノコトデアラウト考ヘルノデゴザイマス、從ツテ此稅制整理トカ、財政計畫ト云フコトハ、時ノ事情ニ應ジマシテ變化スベキコトハ無論デアリマス、將來ノ方針ト致シマシテハ、幾年カノ後ニ財政上幾多ノ變化ヲ生ジマシタラバ、其時ニドウ云フ處置ヲ執ルカト云フヤウナコトハ、無論未決ノ問題ト存ズルノデアリマス、唯目下ノ御計畫トシテ將來ノ御方針ガドウデアルカト云フコトヲ伺フ積リデアリマス、地租ニハ斯ノ如キ沿革モアリマスノデ、私共ハ政府ノ御説明カラ考ヘマシテ、現在ニ於ケル我が國ノ財政經濟ノ事情ニ照シテ負擔ノ均衡ヲ得ベキ方針ヲ御立テニナツテ、茲ニ根本ノ稅制整理ヲ御立テニナツタモノト考ヘルノデアリマス、地租ノ一分減ト云フコトハ、是ニ依ツテ他ノ社會各階級ノ人ト、ソレカラ土地所有者トノ間ノ負擔ノ公平ヲ期スルコトモ出來ル、斯ウ云フヤウニ見テ居リマシタノガ、先刻來御

話ガアツヤウニ多少ノ修正ガアツノデア
リマスガ、此義務教育費ノ國庫負擔ノ増加
ト云フコトト、ソレカラ地租一分減ノ實行
ト云フコトノ間ノ效果ノ異同、比較ニ付キ
マシテハ、先刻來段々御話ガアリマシタ
ガ、或ハ之ヲ唯今申ス必要ハナイト思ヒマ
スガ、免ニ角大體ニ於キマシテ一分減ノ實
行ヲスルト云フコトト、ソレカラ義務教育
費ノ國庫負擔額ヲ増加スルト云フコトト、
全國ニ於ケル負擔ノ均衡ヲ得セシムル大體
趣旨ニ於テハ、異同ハナイカモ知レマセ
ス、即チ稅制整理ノ根本ノ御方針ニハ大シ
タ相違ナイモノトシテ此案ニ御同意ニナ
クモノト考ヘマスルノデ、此點カラ申シマ
スレバ質問者ノ趣旨ハドウデアツカ存ジ
マセヌガ、サウ云フ意味ニ於キマシテ、地
租一分減ハ將來御ヤリニナルカト云フコト
ヲ質問シタノデハナイカト考ヘタノデアリ
マス、ソレニ對シマシテ總理大臣ノ御答辯
ノ如ク、或ハ將來財源ヲ得タナラバ、之ヲ
輕減スルカモ知レヌト云フ御話ハ、茲ニ尙
ホ政府ノ御提案ニナリマシタ地租輕減ト云
フ問題ハ實行セラレズニ懸案トシテ殘テ
居ルカノ如キ疑ヒヲ生ジマシタノデ、私ノ
了解シテ居ル所デハ唯今ノ稅制整理ニ關ス
ル限り、是ハ所謂普通ノ意味ニ於テ打切り
ニナツタノデアアル、ソレニ代ルベキ茲ニ他
ノ法案ガ出來マシテ、之ニ依ッテ負擔ノ均
衡ヲ得ルト御認メニナツテ居ルノデアラウ
ト考ヘマスガ、其點ニ付キマシテ重ネテ御
方針ヲ伺ッテ置キタイト思ヒマス

○國務大臣(濱口雄幸君) 是ハ：御答ヘ
致シマスガ、御話ノ中ニ地租ノ輕減ト云フ
コトハ大分沿革的ノモノデアアル、此内閣ニ
居ル人ミガ當テ二分減ヲ唱ヘタコトモア
リ、ソレガ此度ノ整理案ノ原案デハ一分減
ニナツタト云フヤウナ御話モアリマスカラ、

是ハ多少沿革的ニ申述ベテ見タイト思ヒマ
ス、私共ノ屬シテ居リマスル政黨ガ在野時
代ニ於キマシテ、即チ大正十二年度ノ豫算
ヲ議スベキ所ノ議會、第四十六議會、時ノ
内閣ハ加藤友三郎サンノ内閣デアツタノデ
アリマス、其四十六議會ニ於キマシテ、減
稅案ヲ提案ヲ致シマシテ、私憲政會ヲ代表
シテ其減稅案ノ説明ヲヤリマシタカラヨク
其コトヲ記憶シテ居リマス、其時ノ減稅案
ハ田畑地租ノ二分減、ソレカラ營業稅ヲ廢
止シテ營業收益稅ト云フ名稱ハ用ヒマセヌ
デシタガ、其意味デ營業特別所得稅ト云フ
名稱ヲ其當時ハ用ヒマシタ、サウ云フ稅ヲ
起スベシト云フ意見、ソレカラ醬油稅、自
家用醬油稅ヲ全廢スベシ、ト云フ案トソレ
カラ綿織物消費稅ヲ免除スベシ、斯ウ云フ
案ヲ立テマシテ、議會ニ提案ヲ致シタノデ
アリマス、而シテ地租ノ輕減ニ依ッテ二千
四百萬圓ノ減收ヲ生ズル、營業稅ノ輕減ニ
依ッテ二千二百萬圓以上ノ減收ヲ生ズル、
尤モ時ノ内閣ノ提案ヲ致シマシタ營業稅ノ
改正案ニ依リマスレバ課稅標準カラ建物貨
賃價格ト云フモノヲ取ッテ仕舞ヒマシテ、
其結果一千九百萬圓ノ減少ヲ生ズル案ガ出
テ居ッタノデアリマスガ、ソレニ對シマシ
テ、私共ハ一千九百萬圓ノ上ニ少クトモ三
百萬圓、即チ二千三百萬圓以上ト云フ輕減
ノ出來ルヤウナ制度ニ改ムベシト、斯ウ云
フ議論デアツタノデアリマス、其他間接稅
ノ免稅ニ依リマシテ幾ラカノ減收ヲ見ルト
云フコトニ、斯ウ云フ計畫ニナツテ居ッタノ
デアリマス、即チ地租二分減ニ依リ二千四
百萬圓、營業稅ノ改革ニ依ッテ二千二百萬
圓、合計直接國稅ニ於テ四千六百萬圓ノ減
稅ヲ行フベシ、斯ウ云フ案デアツタノデア
リマス、其他消費稅ニ於キマシテ確カ二千
何百萬圓ト記憶イタシテ居リマスガ、合計

七千萬圓ニナツテ居ルト思ヒマス、其減稅
案ヲ立テマシタ趣旨ハ、是ハ西野君モ御記
憶ノ通りデアリマスガ、丁度華盛頓會議ノ結
果、海軍軍備縮小ノ條約ガ出來マシテ、ソレ
ニ依ッテ主力艦ノ建造ヲ止メル、斯ウ云フコ
トニナリマシタ、ソレニ依ッテ海軍ノ軍艦
製造費ニ於テ少カラザル所、節約ヲスルコト
ガ出來タノデアリマス、陸軍ニ於キマシテ
ハ無論條約ハナカッタノデアリマスケレド
モ、海軍ガ既ニ條約ノ結果ニ依ッテ縮小ヲ
ヤル以上ハ、陸軍モ亦自發的ニ整理縮小ヲ
行フノガ相當デアルト云フ、時ノ政府ノ考
カラ以チマシテ、陸軍ニモ相當ナル所ノ整
理ヲ行ッタノデアリマス、軍備縮小ノ結果
トシテ少カラザル所ノ財源ヲ得タ、其時ノ
内閣デアツタノデアリマス、ソコデ私共ノ
考デハ我國ノ増稅ノ歷史ヲ考フルニ、戰爭
ノ費用ヲ支辨スル爲ニ行ツタ場合カ、然ラズ
ンバ戰後ノ經營、即チ陸海軍備ノ充實、其
爲ニ行ツタ増稅デアツタカ、其二三ノ場合ニ
殆ド限ッテ居ル、中ニ北清事件ト云フ小サ
イ事件ノ爲ニ砂糖消費稅ヲ創設シタコトモ
アリマスガ、大體日清日露ノ戰後經營、何
レモ陸海軍備ノ充實ノ爲ニ増稅ヲ行ハレテ
居ル、然ル以上ハ増稅ノ行ハレタ沿革カラ
考ヘテ見テ、此處ニ増稅ノ理由デアツタ所
ノ陸海軍々備ニ於テ整理輕減ヲ見タル以上
ハ、ソレニ依ッテ生ジタル所ノ歲入ノ剩餘
ト云フモノハ、成可ク之ヲ國民ノ負擔輕減、
即チ減稅ニ充テルベキモノデアルト云フ、
斯ウ云フ議論デアツタノデアリマス、ソコデ
地租二分減ヲ唱ヘ、營業稅ノ二千二百萬圓
減ヲ唱ヘ綿織物ノ免稅醬油稅ノ免除等ヲ唱
ヘタノデアリマス、ソレハ即チ減稅的ノ意
味ニ於ケル所ノ主張デアツタノデ、稅制整
理論デハナカッタノデアリマス、然ルニ其
當時ノ議論ハ議會ノ容ル、所トナリマセヌ

デ、實行ガ出來ナカッタノデアリマスガ、其
後十二年九月ニ震災ガ起ッテ、茲ニ於テ最早
負擔輕減ノ意味ニ於ケル減稅的ノ整理ヲス
ル財政上ノ餘力ガナクナツテ終ヒマシタ、
誠ニ遺憾デアリマスガ、ナクナツタノデア
リマス、此度ノ政府ノ稅制整理ノ目的ハ國
民ノ負擔ヲ輕減スルト云フ減稅ノ意味ヲ
持ッテ居ナイコトハ屢、申上デル通りデア
リマス、減稅的ノ整理ヲスルト云フ主張ハ
是ハ四十六議會ニ唱ヘマシタ、其時ヲ以テ
之ヲ打切ラザルヲ得ヌコトニナツタノデア
リマス、現在ノ狀況ニ於キマシテハ、是ハ
震災ノ結果ガ與ッテ力アラウト思ヒマスガ、
減稅的ノ整理ハ最早財政上ノ餘裕ガナイ、
ソレデ此度ノ整理ハ或ハ稅制上ノ體系ヲ正
シ負擔ノ均衡ヲ圖リ、或ハ社會政策的ノ效
果ヲ舉ゲ、產業ノ發達ヲ圖リ、其財政上ノ
缺陷ヲ補填スル爲ニ相當ナル新稅增稅ヲ起
ス、斯ウ云フコトニナリマシテ、全ク負擔
ノ均衡論カラシテ起ッタ所ノ整理論ニナツ
シマツタノデアリマス、其整理論カラシテ
地租一分減ヲ相當ナリト認メテ整理案ヲ立
テタノデアリマス、衆議院ノ修正ガアリマ
シテ、即チ地租一分減ヲ廢メタ代リニ教育
費ノ增額ト云フコトニナリマシタカラ、其
地租一分減ト云フコトヲ今度ノ整理案ヲ立
テル時ニ考ヘマシタ其理由ハ、形ハ變リマ
シタガ、教育費ノ增額ト云フコトニ依ッテ
相殺セラレタト見テ宜シイト思ヒマス、相
殺セラレタト云フコトデナケレバ、政府ノ
目的ハ達シマセヌ、完全ニハ達シマセヌ
ガ、大體ニ於テ目的ヲ達シマシタカラ、ソ
レニ同意ヲ致シタ次第デアリマスガ、ソレ
ニ依ッテ今度ノ稅制整理ニ依ル所ノ地租一
步減ヲ最早打切ッテ宜イ、斯ウ云フ考ヲ持
テ居リマスカラ、總理大臣ガ本會議デ答辯
サレマシタノモ其趣旨デアツタラウト存ジ

マス、然ラバ地租一分減ト云フコトハ、教育費一千万ノ増額ニ依テ其目的ヲ大體ニ於テ達シタカラコ、デ打切ルノデアッテ、將來ニ向テモ地租一分減ト云フコトハ一切ヤライカ、斯ウ云フ御質問ノヤウデアリマシタカラ、總理大臣ハソレニ對シテ、必シモ然ラズ、他日財政ニ餘格ヲ生ジテ減税ガ出來ルト云フコトニナッタナラバ、其時ニ於テハ地租一分減ト云フコトモ……地租ノ一分減ト云フコトハ申シマセヌデシタ、地租ノ輕減ト云フコトモ相當ニ考ヘテ見ルト云フコトヲ申サレタノデアリマス、ソレハ特ニ地租一分減ヲヤルト云フ意味デハナカタラウト私ハ考ヘテ居リマス、減税ヲシテモ宜シイト云フ御話デアッノデ、此度ノ税制整理トハ觀テ改メタ所ノ別ノ意味ノ減税デアルト思ヒマスガ、其時ニハ他ノ負擔ノ輕減ト共ニ地租ノコトヲ考ヘル積リデアル、斯ウ云フ意味デアッタラウト私ハ思フテ居リマス、今度ノ税制整理ノ地租一分減ハ教育費ノ増額ニ依テ大體ニ於テ目的ヲ達シタ、是ハ一先ヅ打切ル、改メテ他日財政ノ餘格ガ出來タ時ニハ減税ヲスル、サウ云フ意味デアッタラウト思ヒマス、私モサウ云フ考ヲ持ッテ居リマス

○西野元君 段々御説明ヲ伺ヒマシテ分リマシタ、私モ唯今大藏大臣ノ御説明ヲ戴キマシタ事情ハ心得テ居リマスガ、尙ホ詳細ナ御説明ニ依リマシテ一層政府ノ御趣旨ノアル所モ判然イタシマシタト心得テ居リマス、私モ左様ナ御趣旨デアルト考ヘテ居リマシタカラ、總理大臣ノ過日ノ御答辯ニ、或ハ又沿革的ニ、ドウ云フ場合ニ將來財政上ニ餘格ガ出タラバ斯ウスル積リダト云フヤウナ事情ガアトニ殘ッテ居リマスカラ、世間ノ疑惑ヲ起スコトガ無キカヲ虞レマシタ、私ハ會テ二分減ヲ唱ヘタニ付テドウコ

ウト云フ説モ、アリマシタノデアリマス、サウ云フコトガ往々ニシテ世間ノ誤解ヲ起スコトガアリマスカラ、此點ヲ伺ヒタ次第デアリマス、ソレカラ尙ホ私ノ伺ヒタイノハ資本利子税ノ根本ノ觀念ニ付キマシテ大體伺ヒテ置キタイノデアリマス、今回資本利子税トシテ御提案ニナリマシタモノノ中デ、全體ニ付テ考ヘテ見マスト、其性質ガ此所得税ノ延長ノ如キモノノヤウニ存ゼラレルノデアリマス、之ニ付テ大藏大臣ニ伺ヒマシテ、段々御説明ニナリマシテ、ソレハ所得税ト全ク別物デアルト云フヤウナ御説明デハナイカト思フタノデアリマスガ、別物トモ考ヘラレルヤウデアリマスガ、此甲種乙種ノ内ニ付キマシテハ、多少相違ノ點ガアリマスガ、甲種ノ資本利子税ニ付キマシテハ全然第二種所得税ノ増率トモ言フベキモノノヤウニ考ヘラレルノデアリマスガ、是ハドウ云フ風ナ意味ニ於キマシテ此資本利子税トシテ特別ノ税目ト爲スベキ根據ガゴザイマスノデアリマセウカ、所得税ノ補完税トシテ御設ケニナッタト云フコトノ御趣旨ニ大體ニナッテ居リマスガ、其事實ガ如何ニモ所得税其者ノ増率ノ如キ感モアルノデアリマスガ、其點ニ付テ一應伺ヒテ置キタイト思ヒマス

○國務大臣(濱口雄幸君) 是ハ如何ニモ御承知ノ通り第二種所得税ノ延長ノ如キ形ガ見エマス、所得税ノ關係ニ於キマシテ昨日モ申上ダタト思フテ居リマスガ、總テノ所得ヲ其人ニ綜合イタシテ課税スルト云フコトガ理想デアリマス、其理論上ノ要求ヲ貫クコトノ出來ナイト云フ實行上ノ問題ヲ考慮サレタ結果、所得税ノ組織ハ第一種、第二種、第三種ト現在ナッテ居リマス、其三ツノモノガ一體トナッテ一般所得税ノ形ヲ成シテ居ルノデアリマス、ソレニ依ッテ總

テノ所得ハ大體ニ於テ公平ニ課税サレタルモノト、一應ハ看做サナケレバナリマセヌ、所得税ノ問題ハ一先ツソレデ片附イタモノト思ヒマス、諸君其所得税ノ實行上ニ於テ如何ナル缺點ガアルカ、是ハ御承知ノ通りノ資產重課ト云フ點ニ於テ今一ツハ所得隱蔽ノ弊ガアル、斯ウ云フノガ第二ノ缺點デアリマス、ソレヲ補完スルガ爲ニ此補完税ヲ置ク、地租ニ補完税ヲ課シテ、營業ノ資本ニモ補完税ヲ課スル、家屋税ハ地方税トシテヤルコトニスル、サウシマスト殘ル所ハ資本利子一ツデアリマス、茲ニ於テ公債、社債、銀行ノ預金利子ト云フヤウナモノガ殘リマスカラ、ソレヲ或ル形ニ於テ捉ヘナケレバナラヌ、然ラズンバ租税ノ體系ヲ成サナイ、又負擔ノ公平ヲ期スル譯ニイカヌ、資產重課ノ目的ヲ達スル譯ニ行カヌ、ソコデ如何ナル方法ニ依テ此資本利子ヲ捕捉スルコトガ出來ルカト云フ問題ニナルノデアリマス、是ガ御承知ノ通り其捕捉ガ頗ル困難デ色々考究ヲ致シマシタ結果、大體ニ於テ現在ノ第二種所得税ニ於テ捕捉ヲ致シテ居リマスアノ形ニ於テ、モウ一遍捉ヘルト云フ外ニハ、ドウシテモ他ニ適當ナル所得ノ捕捉ノ方法ガ見ツカラヌノデアリマス、形カラ申シマスト、如何ニモ第二種ノ所得税ヲ二度取ルト云フ如ク見エマスケレドモ、其税ノ性質ハ全ク違ッテ居ルト云フコトハ、是ハ御了知下サル通りデアリマス、如何ニモ形ノ上ニ於キマシテ二度所得税ヲ取ルヤウニ見エマスガ、是ハ租税ノ賦課ヲ致シマスル上ニ於テ、實際上已ムヲ得ザル結果デアリマス、他ニ適當ナル所ノ課税物件ノ捕捉ノ仕様がナカタノデアリマシテ、サウ云フ結果ニナッテ、世間カラ往々ニシテ是ハ第二種所得税ノ重課デアルト云フヤウナ批評ヲ受ケマスコトハ誠ニ已ムヲ得ナ

イ次第デアリマスガ、誠ニ右ノ如キ公債、社債、或ハ銀行預金利子ト云フヤウナモノヲ捉ヘテ之ニ課税イタシマスト云フ點ニ付キマシテハ、サウ云フ形ヲ取ルヨリ外ニ何ト致シマシテモ適當ナ方法ガ見ツケラレナカタ、誠ニ已ムヲ得ナカタノデアリマス

○西野元君 段々御趣旨ヲ承リマシタガ、此乙種ニ付キマシテハ、第三種所得税ノ綜合課税デアアルニ對シマシテ比例上賦課スルト云フコトハ、多少ノ別箇ノ租税タル性質ヲ持ッテ居リマスガ、甲種ニ付キマシテハ其性質ハ所得税ノ増率ニ一體ハ違ハナイモノト思ヒマス、其點ハ大藏大臣モ其性質ヲ御認メニナッテ居ルヤウニ思ヒマスガ、茲デ其是非ヲ彼此レ申ス譯デハナイノデアリマスガ、茲デ一ツ違ヒマスコトハ、此甲種ニ於キマシテ、資本利子税ニ對シテハ、第二種所得税ヲ免除シテ居ル國債ガ入ッテ店ル點ガ著シイ相違ダト思ヒマス、資本利子税制定ノ結果、其點ノ區別ガ取レタト云フコトハ或ハ實行上ノ一ツノ著シイ點カト思フノデアリマスガ、其國債ノ利子ノ免税ノコトニ付キマシテハ、過日來段々政府當局ノ御説明ガアリマシタノデアリマスガ、今日ニ於キマシテ國債ノ所得税ヲ免除スルト云フコトハ、他ノ證券トノ振リ合上適當デナイケレドモ、已ムヲ得ズ暫ク現状ノ儘デ行クト云フヤウナ骨子ノヤウニモ見エマスガ、斯ノ如ク致シマスレバ、何時マデ經ッテモ今後新ニ發行シマスル公債ニ付テ其特典ガ附イテ參ルノデアリマスガ、或ハ如何ナル時カ、劃然ト之ヲ打切ラナケレバナラヌヤウナ場合ガアルノデヤナイカト思ヒマスガ、此特典ノアル時代ニ發行シタ公債ニ付テハ、從來ノ特典ヲ維持シテ行ク、將來發行スルモノニ付テハ所得税ニ免除シナイ、斯ウ云フ風ナ御考ヘハナイノデアリマセウ

貴族院所得税法中改正法律案外二十一件特別委員會議事速記録第二號 大正十五年三月三日

カ サウ致シマスレバ、同ジ國際ノ中デ發行ノ時期ニ依テ課稅上ノ取扱ヲ異ニスルト云フコトモ出來ル譯ニハナリマスガ、何等カソレ等ノ點ニ付キマシテハ可否ノ御研究ガ無論アツコトト思ヒマスガ、其御意見ガアリマスレバ承ッテ置キタイト思ヒマス

○政府委員(黒田英雄君) 唯今御尋ノ點ニ付キマシテハ、當局ニ於キマシテモ十分ニ考究ヲ致シタノデアリマス、現在國債ニ對シマシテ所得稅ヲ課シテ居リマセヌコトハ申上ダルマデモナク、御承知ノ通り特別ノ法律ニ依リマシテ所得稅ヲ免除イタシテ居ルノデアリマス、ソレ故ニ今日ニ於キマシテハ國債ニ對シマシテ所得稅ヲ課シマセヌコトハ、此單行法ガアル結果デアアルノデアリマスガ、國內ノ關係ニ於キマシテ、此法律ガ將來若シ變更セラレルコトガアリマシタナラバ、國債ニ對シマシテ所得稅ヲ課スルト云フコトハ、是ハ法律論ト致シマシテ必シモ不當デナカラウト考ヘテ居ルノデアリマス、即チ法律ノ結果トシテ免稅イタシテ居リマスカラ、此法律ガ變更サレマシテ課稅ヲスルト云フコトニナリマスレバ當然負擔シナケレバナラス、或ハ外ノ社債等ニ付キマシテモ今日百分ノ五デアルトカ、或ハ地方債ガ百分ノ四ト云フコトデ課稅サレテ居ル、ソレニ依テ社債ガ發行サレ、地方債ガ發行サレテ居ル、所有者モ其積リデ、持ッテ居ルト致シマシテモ、將來ニ於キマシテ、此稅率ガ變更サレマシタナラバソレダケノ負擔ハ更ニシナケレバナラス、發行イタシマス時ノ法律ノ制度ニハ或ハ所得稅ヲ免ジテ居ル、或ハ其率ガ百分ノ四ニナシテ居ルト云フコトニ依テ、必シモ將來拘束セラル、モノデナカラウ、左様ナ次第デアリマスカラ、若シ此單行法ヲ變改イタシマシテ課稅ヲ致スト云フコトニナリマスレ

バ、當然從來發行イタシマシタ國債ニ付キマシテモ之ニ課稅スルト云フコトハ必ズシモ不當ナコトデハナカラウト云フ風ニ考ヘテ居リマス、併ナガラ經濟上ノ點カラ觀察イタシマシテ、法律論ト致シマシテハ課稅ノ出來ルモノト致シマシテモ、既ニ所得稅ヲ免除スルト云フコトノ了解ノ下ニ發行イタシテ居リマスルモノヲ課稅スルト云フコトガ適當デナイト云フ議論ガアリト致シマスレバ、或ハ將來ニ發行スルモノニ付テハ課稅ヲスルト云フコトモ一ツノ方法デアラウカト考ヘテ居ルノデアリマス、併ナガラ今回ニ於キマシテハ免ニ角所得稅ヲ免除イタシテ居リマスル現行ノ制度ヲ變更イタサナイト云フコトニ致シマシタノデ、其點迄ハ今日決定ハ致シテ居ラヌノデアリマスケレドモ、法律論ト致シマシテハ從來ノモノニ對シマシテモ課稅ヲ致スト云フコトハ出來ルコトデアアルト云フ風ニ考ヘテ居ル次第デアリマス

○西野元君 尙ホソレニ關聯イタシマシテ一點伺ッテ置キタイト存ジマスガ、從來外國ニ於テ發行致シマシタモノノ國債ノ中ニ所得稅ヲ課セナイトカ、或ハ進シデ所得稅以外ニモ何等ノ稅モ課セナイト云フヤウナ諒解、若クハ約束ト言ヒマスガ、左様ナモノモアツタヤウニ承知イタシテ居ルノデアリマスガ、ソレ等ノモノニシテ尙ホ現ニ殘ッテ居ル國債ガアリマス、ソレ等ノモノガ此立法ト抵觸スルヤウナ虞ノアルモノハナイノデアリマセウカ、其點ヲチヨット念ノ爲ニ伺ッテ置キタイ

○政府委員(黒田英雄君) 御答ヲ申上ゲマス、只今御尋ニナリマシタ外國ニ於キマシテ發行イタシマシタ國債ニ付キマシテ、租稅ノ免除ノコトヲ契約イタシテ居リマスルノハ御承知ノ通り數種アルノデアリマス、

第二回ノ四分利付英貨公債、五分利附英貨公債、四分利付佛貨公債、第三回四分利付英貨公債、六分半利付米貨公債、六分利付英貨公債、斯ウ云フ風ニナリマスルガ、併シ是等ノ中ニ於キマシテ其利子ノ支拂ヲ、外國ニ於テノミ利子ノ支拂ヲスルト云フコトノ契約ニナッテ居ルモノガ多イノデアリマス、ソレニ付キマシテハ今回資本利子稅ヲ設ケマスルニ付キマシテモ、資本利子稅ヲ施行地内ニ於キマシテ、支拂ヒマスモノニ對シマシテ課稅ヲ致スト云フコトニ致シテ居ルノデアリマスカラ、外國ノミニ於テ支拂ヲスルモノニ付キマシテハ、別ニ資本利子稅ノ關係ハ生ジナイノデアリマス、唯前申上ゲマシタ種類ノ中デ以テ、利子ノ支拂ヲ内地ニ於テモ支拂フコトガ出來ルヤウニ致シテ居ルモノガアルノデアリマス、ソレハ先程申上ゲマシタ中ノ四分利付佛貨公債、第三回四分利付英貨公債、六分利付英貨公債、此三種デアアルノデアリマス、然ルニ此三種ノ外國ニ於テ發行シマシタ國債ニ付キマシテモ、其契約ニ於キマシテハ日本人又ハ日本ニ居住スル外國人ヲ除キマシテ、日本ニ居住シナイ外國人ニ限ッテ租稅ヲ免除スルト云フヤウナ意味ノ契約ニナッテ居ルノデアリマス、從ッテ日本人ガ持チマスモノ、日本ニ居住シテ日本デ支拂ヲ受ケルト云フモノニ付キマシテハ、別ニ租稅免除ノ契約ガ無いノデアリマスカラ、是ハ資本利子稅ヲ掛ケマシテモ差支ナイヤウニ考ヘルノデアリマス、ソレ以外ノモノニ付キマシテハ、

是ハ内地ニ於テ支拂スルト云フ必要モ無いノデアリマスシ、又サウ云フ場合モ殆ドナカラウト考ヘルノデアリマスカラ、別ニ支障ナイヤウニ考ヘマシタ次第デアリマス

○西野元君 サウ致シマス、只今外國人ガ外國デ持ッテ居ッテ、ソレヲ内地ニ送ッテ内地デ支拂ヲ受ケマス場合ニ、此法律施行地ニ於テ支拂ヲ受ケルモノトシテ利子稅ヲ取ラレルト云フヤウナモノハナイノデアリマセウカ

○政府委員(黒田英雄君) 是ハ大體皆無記名デアリマス結果ト致シマシテ、内地ニ居住シナイ、外國ニ居ッテ支拂ヒヲ受ケルノデアルト云フ風ノコトヲ實際ニ於テ主張イタシマスコトハ困難デアラウト思ヒマス、大體又サウ云フ場合ニ外國ニ居住イタシテ居ル者ガ態、日本内地ニ利子ノ受取りニ寄越スト云フコトハ、實際ニ必要上カラ申シマシテモ餘リナカラウト思ヒマスノデ、別ニ差支ヘナイト考ヘテ居リマスガ、若シサウ云フ場合ガアリマシテモ、サウ云フ場合ハ課稅ハ致サナイコトニ相成ラウト思ッテ居リマス

○添田壽一君 私ハ地方稅ニ付テ今日頂キマシタ表カラ疑ヒヲ起シタノデアリマスカ...

○委員長(子爵前田利定君) チヨット添田君ニ伺ヒマスガ、地方稅デゴザイマスガ...

○添田壽一君 ハイ

○委員長(子爵前田利定君) 大藏大臣デ宜シウゴザイマスガ、ソレトモ内務大臣ガ御見エニナッテカラニ致シマスガ、内務省ノ政府委員デ宜シウゴザイマスガ...

○添田壽一君 ドチラデノモ宜シウゴザイマス...此表ヲ拜見イタシマス、稅目ノ多イコト實ニ驚クベキ程デアリマスガ、地方稅ハ矢張り國稅...

○委員長(子爵前田利定君) 御發言中デアリマスガ、今内務省ノ政府委員ヲ呼びニ行キマシタ

○藤山雷太君 私ハ斯ウ云フコトヲチヨット御尋ネ申シテ見タイト思ヒマス、海外ニ於ケル企業者ハ是ハ二重課稅ト云フモノニ

ナリ、税ハ課セナイト云フヤウナ議論ハゴ
ザイマスガ、今度ハ所得税ニ對シテモ矢張
リ同ジヤウニ元ノ通りニ掛ルト考ヘマスガ、
ソレハ今後海外企業ヲ獎勵スル、又今日國
際貸借ガソレダケ殖エマシテ、外國ノ公債
ナドガ殖エル場合ニ於テハ、ドウシテモ此
海外企業ノ所得ニ對シテハ課税シナイト云
フコトデ御處理ニナッタラドウカト思ヒマ
スガ、其點ニ付テ政府ハ何ト考ヘテ居リマ
スカ

税ト、主トシテ甲種ニ付テ申スノデアリマ
スガ、ソレト第二種所得甲種トノ關係ニ付
キマシテ分ラナイ一點ガゴザイマス、是ハ
大藏大臣ヲ煩ス必要モゴザイマセスカラ、
政府委員ノ方カラ御説明ヲ願ヘバ結構デア
リマス、此關係ハ何人ニモ、一見何ト申シ
マスガ「アーティフィカル」人爲的ノヤウナ感ジ
ガスル譯デアリマスガ、資本利子税ト、第
二種所得税トノ何ハ税種トシテハ全然異ナ
ルモノデアアル、課税物件ハ同ジデアツテモ、
税ノ種類トシテ全然異ナルモノデアアル、從
テ單行法ヲ要スルモノデアルト云フヤウナ
政府委員ノ御説明モ或ル機會ニ於テアツタ
ヤウデアリマス、ソコデ疑ヲ起スコトハ、
資本利子税ノ甲種ハ第三種所得ニ綜合セラ
ルルヤ否ヤト云フコトヲ考ヘテ見タイト思
ヒマス、第三種ニ資本利子税ノ乙種ハ第三
種所得ニ綜合セラレルト云フコトハ是ハ明
カナコトデアリマスガ、是ハ或ル機會ニ於
テ政府委員ガ御説明ニナツタカト存ジマス
ガ、資本利子税甲種ハ然ラバ第三種所得ニ
綜合セラレルトデアアルカナイカト云フコト
ヲ考ヘテ見マス、多少私ハソコニ疑問ガ
起ルヤウナ氣ガ致シマス、若シ綜合セラレ
ルモノデアアルナラバ、課税物件ノ上カラ第
二種所得ノ甲種ト衝突ヲ來スト云フヤウナ
關係ガアルヤウニ思ヒマス、若シ綜合シナ
イトスレバ何處ニ法規上ノ根據ガアリマス
カ、私ニハ分ラヌノデアリマス、此點ヲチ
ヨツト御説明ヲシテ戴キタイト思ヒマス

ニナルノデアリマスカラ、第二種ノ所得ハ
其綜合ノ外ニ相成ルコトニ規定サレテ居ル
ノデアリマス
○左右田喜一郎君 チョット私ノ御質問申
上ダテ趣意ニ違フテ居ルヤウデアリマス、資
本利子税ノ甲種ハ第三種所得ニ綜合セラル
ルヤ否ヤト云フ問題デアリマス、第二種所
得ノ甲種ハ第三種ニ勿論綜合セラレマセヌケ
レドモ、資本利子税ノ乙種ハ第三種所得ニ綜
合セラレルトハ明カナコトデアリマス
ガ、資本利子税ノ甲種ハ第三種所得ニ綜合セ
ラレルトデアアルカナイカト云フ問題デアリ
マス

イガ、ソレハ課税物件トシテ同ジク資本利
子税デアアルガ爲ニ、今度第三種所得ニ綜合セ
ラレルトデアアル、ト云フ論結モ生ジ得ラレ
ルト思フノデアリマス、ソコデ疑ヲ持チマ
スノデ殊ニ資本利子税ト所得ガ獨立ノ税デ
アルト云フコトハ、是ハ今政府デ御説明ニ
ナツテ居リマスガ、眞ニ獨立デアルト云フコ
トヲ最後マデ御執リニナルナラバ、唯今私
ノ申上ダテヤウナ理窟ニナルデハナイカト
云フコトヲ疑フノデアリマス、其點ヲ一ツ
御説明ヲ願ヒマス

○政府委員(黑田英雄君) チョット私ガ御
答申上ダマシタノガ御質問ノ趣旨ニ合シテ
居リマセヌカト考ヘマスガ、先程大藏大臣ノ
申上ダマシタ通り、第二種ノ所得ガ若シ理
想通り總テノ所得税ニ於キマシテ總テノ所
得税ト云フモノガ御質問ノヤウニ綜合サレ
ル、其綜合サレタ所得ニ對シテ所得税ヲ課
スルト云フ制度ガ出來テ居リマシタナラバ、
此資本利子税ニ付キマシテモ矢張り綜合サ
レマシタ所得ノ中ニアル所得ヲ捉ヘマシ
テ、ソレニ對シテ資本利子税ヲ課スルト云
フコトニ立前ガナルモノデアラウト考ヘマ
ス、所ガ現行ノ所得税ニ於キマシテハ第二
種ノ所得ト云フモノガ綜合ハ出來ナイ、是
ハ申上ダルマデモナク詳シク申上ダル必要
モナイト思ヒマスガ、ソレハ出來ナイト云
フ結果ト致シマシテハ、是ダケガ、別ニ綜
合サレナイト云フコトニナツテ居リマスガ
ラ、資本利子税ヲ課ケマスル所ノ目的トナ
リマス所得モ偶、此第二種ノ所得ト甲種ニ
付テハ同シデアアル結果ト致シマシテ、勿論
國債ハ含シテ居リマスガ同ジデアアル結果ト
致シマシテ、綜合サレナイ所ノ所得ニ對シ
テ資本利子税ヲ課ケルト云フ結果ニナツテ
居ルノデアリマス、其點ハ唯今更ニ御述ニ
ナリマシタガ、私ニチヨツト了解シ兼ねタノ

○國務大臣(濱口雄幸君) 唯今ノ問題ハ大
分是ハ考究ヲ致シマシテ、如何ニモ海外ニ
對スル所ノ放資ヲ獎勵シ、又事業ヲ獎勵ス
ル上ニ於テハ確ニ有力ナル所ノ手段デアラ
ウト思ヒマスガ、之ヲヤリマススト云フト日
本ノ國柄ト致シマシテ、大分歲入ニ影響ス
ルコトガ多カラウト思ヒマス、例ヘバ亞米
利加ノ如キ國柄ト云フモノデアリマス、ト
亞米利加カラ支那ニ對シテ資金ヲ投下シテ
ヤル、其利益ハ所得税ヲ課セヌト云フヤウ
ナコトガ遠ク海ヲ隔テ、居リマスカラ出來
ルト思ヒマスガ、日本デアリマススト云フト
如何ニモ此隣國ノ支那、ソレカラ滿洲、關東
州總テノ外國ト云フ以上ハ區別スル譯ニ參
リマセヌカラ、一體ニヤラナケレバナラヌ
或ハ南洋ニ限ルトカ、或ハ馬來半島ニ限ル
トカ云フ譯ニ參リマセヌ、總テ一律ニ苟モ
海外ニ對スル投資デアアル以上、外國ニ卸シ
テ居ル資本ノ利子デアアル以上、之ニ對シ
テ所得税ヲ掛ケヌト云フコトニナリマスル
ト、歲入ノ缺陷ガ多イコトニナリマシテ際
限ノナイコトニナリマスカラ、此點ハ政府
ニ於テハ採ラナカッタノデアリマス

○政府委員(黑田英雄君) 御尋ノ第二種所
得ハ個人ノ所得ニ綜合イタサナイコトニ相
成テ居ルノデアリマス、ソレハ現行所得税
法ノ第三條ニ第三種ノ所得ト申シマスルノ
ハ第二種ニ屬セザル個人ノ所得ト云フコト
ニ相成テ居ルノデアリマス、第二種ニ屬セ
ザル個人ノ所得ダケガ綜合イタサレルトコト

○左右田喜一郎君 唯今ノ御説明ハ私シ少
シ疑問ヲ持チマスノデアリマスガ、資本利子税
ノ甲種ハ資本利子税トシテ第三種所得ニ綜
合セラレナイガ、其課税物件ガ偶、第一種
所得ノ甲種ト偶然ニ合フテ居ルト云フコト
ノ理由ノ爲ニ、第三種所得ニ綜合セラレナ
イト云フコトハ、私ハ理窟ニナラヌト思ヒ
マス、若シサウデアアルナラバ同ジ筆法ヲ以
テ資本利子税ト第二種所得ト云フモノハ獨
立ノモノデアルト云フナラバ、同ジ論理ヲ以
テ逆ニ用キテ言フコトモ出來ル、第二種所
得デアル場合ニ於テ第三種所得ニ綜合セラレナ

○政府委員(黑田英雄君) チョット私ガ御
答申上ダマシタノガ御質問ノ趣旨ニ合シテ
居リマセヌカト考ヘマスガ、先程大藏大臣ノ
申上ダマシタ通り、第二種ノ所得ガ若シ理
想通り總テノ所得税ニ於キマシテ總テノ所
得税ト云フモノガ御質問ノヤウニ綜合サレ
ル、其綜合サレタ所得ニ對シテ所得税ヲ課
スルト云フ制度ガ出來テ居リマシタナラバ、
此資本利子税ニ付キマシテモ矢張り綜合サ
レマシタ所得ノ中ニアル所得ヲ捉ヘマシ
テ、ソレニ對シテ資本利子税ヲ課スルト云
フコトニ立前ガナルモノデアラウト考ヘマ
ス、所ガ現行ノ所得税ニ於キマシテハ第二
種ノ所得ト云フモノガ綜合ハ出來ナイ、是
ハ申上ダルマデモナク詳シク申上ダル必要
モナイト思ヒマスガ、ソレハ出來ナイト云
フ結果ト致シマシテハ、是ダケガ、別ニ綜
合サレナイト云フコトニナツテ居リマスガ
ラ、資本利子税ヲ課ケマスル所ノ目的トナ
リマス所得モ偶、此第二種ノ所得ト甲種ニ
付テハ同シデアアル結果ト致シマシテ、勿論
國債ハ含シテ居リマスガ同ジデアアル結果ト
致シマシテ、綜合サレナイ所ノ所得ニ對シ
テ資本利子税ヲ課ケルト云フ結果ニナツテ
居ルノデアリマス、其點ハ唯今更ニ御述ニ
ナリマシタガ、私ニチヨツト了解シ兼ねタノ

貴族院所得税法中改正法律案外二十一件特別委員會會議事速記第二號 大正十五年三月三日

デアリマスケレドモ、現在ノ狀況ニ於キマシテハ綜合サレナイ其所得ニ對シテ資本利子税ヲ掛ケルト云フ結果ニナツテ居ルノデアリマス、理想ト致シマシテ勿論綜合サレタ特別ノ所得ニ對シテ資本利子税ヲ掛ケルト云フコトガ理想デアラウト考ヘテ居ルノデアリマス

○左右田喜一郎君 私ノ申シ方ガ、言葉ノ使ヒヤウガ惡イセイカ御理解ニナラヌヤウデアリマスカラ、モウ一遍甚冗長デアリマ

スガ繰返シマス、政府委員トシマシテ始終資本利子税ノ所得ト云フモノガ全然獨立ノ税デアルト云フコトヲ始終御説明ニナツテ居リマス、ソレデナケレバ資本利子税ト云フ茲ニ一ツ税法ヲ御決メニナル必要ハアリマセヌ、單純ニ百分ノ二ヲ加ヘバ宜シ

イ譯デアリマス、從テ租税ノ體系ノ上カラ言フモ今回ノ資本利子税ト云フモノヲ特別ニ御決メニナツタ以上ハ、資本利子税ト所得税トハ税種トシテ獨立デアルト云フコトハ御認メニナラナケレバナラヌト斯ウ考ヘ

ルノデアリマス、サウシマスニ云フト資本利子税ノ甲ノモノハ第三種ノ所得ニ綜合セラレナイト云フコトハ、偶、課税物件第二

所得ト同一デアルト云フ一ツノ迂迴ヲシテ出テ來ル論法デアツテ、資本利子税其モノハ第三種ノ所得ニ綜合セラレナイ理窟ハナイ

ノデアアル、是ハ明カニ資本利子税ノ乙種ハ第三所得ニ綜合セラレルノデアアル、ソレデアリマスカラ若シ資本利子税ノ甲種ハ偶、

第二所得ノ甲種ト同一デアアルガ故ニ、第三所得ニ綜合セラレナイト云フコトナラバ、

其逆ニ又言フコトガ出來ヤセヌカト云フコトヲ御問ヒスルノデアリマス、即チ第二種所得ト考ヘラレル場合ニハ、第三所得ニ綜合セラレナイカ、ソレハ資本利子税ノ課税

物件デアアル、其意味ニ於テ第三種所得ニ綜

合セラレルノダト云フコトモ言ヒ得ルト思

フ、其輕重ハ所謂資本利子税ト所得税ガ經

濟上ニ於テハ或ハ本税ノ補完ト云フヤウナ

コトガアリマシタカ知レマセヌガ、法律ノ上

カラ行ケバ資本利子税ト所得税トハ獨立シ

タ所ノ税デアルト云フコトデアアルナラバ、

私ノ今申上ゲタ理窟ガ立チハセヌカ、斯ウ

云フコトヲ申上ゲタ次第デアリマス

○政府委員(黑田英雄君) 御答申上ゲマス

ガ、私ハ其御尋ニ對シテ御答ヘ申上ゲテ居

ル積リデ居リマスルガ、ドウモ言現シ方ガ

下手ナセイカ御諒解下サイマセヌハ甚遺憾

デゴザイマス、資本利子税ハ所得税ノ中ノ

或ル種ノ所得ニ對シマシテ資本利子税ヲ課

ケヤウトスルノガ、資本利子税ノ目的デア

ルノデアリマス、ソレ故ニ所得税ガ若シ理

想的ニ出來マシテ、幾ラガ綜合サレルト云

フコトノ仕組ニナツテ居リマスレバ、綜合

サレテ居リマス中ノ或ル種ノ所謂所得ト云

フモノニハ、資本利子税ヲ課ケルト云フコ

トニナリマスルカラ、所得税トシテハ綜合

サレル、サウシテ資本利子税トシテ其中ノ

或ル所得ダケヲ控ヘテソレニ對シテ税率ヲ

課ケルト云フコトニナルノガ本件デアラウ

ト私ハ考ヘテ居ルノデアリマス、所得税法

ニ於キマシテ偶、資本利子税ヲ課ケベキヤ

ウナ所得ガ綜合ヲスルコトガ困難ノ爲ニ離

レテ居リマスル爲ニ、丁度離レタ所得ニ對

シテ即チ第二種所得ニ對シテ資本利子税ヲ課ケルト云フ結果ニナツテ居ルノデアリマ

ス、之ヲ申上ゲタノデアリマシテ、本來カ

ラ申シマスレバ、綜合サレテ居タ其所得

税ト云フモノガ此所ニアツテ、其中ノ色ミ

ノ所得ニ對シテ營業所得、或ハ資本利子税

ヲ課ケルト云フコトニ依ツテ、始メテ補完

税ノ働キガ全キヲ得ルモノデアラウト云フ

風ニ考ヘテ居ルノデアリマス、唯今ノ反對

カラ見ルト斯ウナルト云フ御話デアリマス

ルガ、其點ハ一寸ドウモ私了解シ兼ねルノ

デアリマスガ、私共ノ申上ゲタ趣意ハ前申

上ゲマスル通りデアリマシテ、偶、今ノ制

度ノ結果トシテ資本利子税ト第二種所得税

トガ殆ンド同ジモノニナツテ、ソレ故ニ結

果カラ申シマスレバ、第二種ノ所得税ノ増

率ヲシテモ大部分ノ目的ヲ達スルデヤナイ

カト云フ御説ニ對シテハ誠ニ其通りデアリ

マスト申上ゲルヨリ外ナイノデアリマス

○左右田喜一郎君 何ダカ爭ヲスルヤウナ

形デ甚ダ恐縮デアリマスガ、ドウヤラ私ノ

申上ゲルコトガ御了解ヲ願ヒナイノハ甚遺

憾ニ存ジマスガ、極ク端の二申上ゲマス、

資本利子税ト云フモノハ資本利子其モノト

シテ第三所得ニ綜合セラレナイノカ、或ハ

セラレルノカト云フコトヲ一ツ御答ヲ願ヘ

バ能ク分ルト思フ

○政府委員(黑田英雄君) 資本利子其モノ

ト云フモノハ先程申シマスル通り、理想ト

シテ綜合スベキモノデアリマスガ、現在ノ

制度ト致シマシテ綜合出來マセヌ爲ニ、綜

合シナイデ所得トシテ無論別個ニ取扱レテ

居リマス

○左右田喜一郎君 資本利子其モノトシテ

綜合出來ナイコトハナイト思フ、資本利子

税ノ課税物件トシテ考ヘラレマシタ甲種ガ

決シテ第三所得ニ綜合セラレナイト云フコ

トハナイト思フ、ソレハ唯偶、課税物件ガ

同一デアアルガ爲ニ而シテソレガ所得税法ニ

於キマシテ、第二所得ト特別ノ扱ヒヲ受ケ

テ居ルガ爲ニ、第三種所得ニ綜合セラレナ

イダケデアリマス、第三所得ニ綜合セラレ

ナイト云フコトハ、第二所得トシテ扱ハレ

ルカラノ理由デアリマス、決シテ資本利子

税トシテ資本利子ノ課税物件トシテアルガ

爲ニ綜合セラレナイト云フ理窟ハ出テ來ナ

イト思フ

○政府委員(黑田英雄君) 稍、私ガ誤解致

シテ居リマシタ點ヲ發見致シマシタノデ

アリマスガ、成程此資本利子ト云フモノハ

個人ノ所得ニ綜合シテ居リマセヌト云フコ

トヲ申上ゲマシタノハ、所得税ヲ課ケマス

ル上ニ於テ、綜合ヲ致シテ居ラヌト云フコ

トノ意味デ申上ゲタノデアリマス、資本利

子ノ方カラ申マシマスレバ、ソレハ綜合サレテ

居ヤウガサレテ居マイガ、其人ガ所得シタ

資本利子ヲ規テ課税スレバ宜シイ、資

本利子ノ方カラ見マスレバ……所得税ノ方

カラ見マスレバ、ソレハ綜合シテ累進税ヲ

課ケルカ、別ニ取扱フカト云フコトニナル

ノデアリマスカラ、所得税ノ方カラ見マス

レバ、綜合シテ居リマセヌモノデアアル、資

本利子税ノ方カラ申シマスレバ、ソレハ綜

合シテアラウガ、アルマイガ、其點ハ理論ト

シテハ構ハナイモノデアアル、斯ウ云フヤウ

ナ考デアリマス

○左右田喜一郎君 唯今ノ何ハ資本利子税

ノ乙種ヲ御考ニナレバ直グ分ル、乙種ハ第

三所得ニ綜合セラレルノデアリマス、資本

利子税ノ甲種ガ第三所得ニ綜合セラレナイ

ト云フコトハ單純ニ第二所得ト偶、課税物

件ガ同一デアアルカラト云フ理由ハナイト思

フ、資本利子其モノガ第三種所得ニ課税セ

ラレナイト云フ法規ハ何處ニモナイ、ソレ

デ私ハ疑ヲ生ジマス、サウシテ資本利子税

ト云フモノト所得税トガ兩方同ジ所謂權利

ヲ有ッテ居ルト云フノデアアルナラバ、何故

ニ資本利子ノ甲種ヲ第二所得ノ甲種ト認メ

テ第三所得ニ綜合シナイノカト云フコトニ

ナツテ來ル、反對ノコトモ私ハ言ヘヤシナ

イカト思フ、即チ第二所得モ甲種デアアル場

合ニハ第三所得ニ綜合セラレナイ、ソレハ

資本利子税ノ對象デアルト云フコトデア

アル

○左右田喜一郎君 唯今ノ何ハ資本利子税

ノ乙種ヲ御考ニナレバ直グ分ル、乙種ハ第

三所得ニ綜合セラレルノデアリマス、資本

利子税ノ甲種ガ第三所得ニ綜合セラレナイ

ト云フコトハ單純ニ第二所得ト偶、課税物

件ガ同一デアアルカラト云フ理由ハナイト思

フ、資本利子其モノガ第三種所得ニ課税セ

ラレナイト云フ法規ハ何處ニモナイ、ソレ

デ私ハ疑ヲ生ジマス、サウシテ資本利子税

ト云フモノト所得税トガ兩方同ジ所謂權利

ヲ有ッテ居ルト云フノデアアルナラバ、何故

ニ資本利子ノ甲種ヲ第二所得ノ甲種ト認メ

テ第三所得ニ綜合シナイノカト云フコトニ

ナツテ來ル、反對ノコトモ私ハ言ヘヤシナ

イカト思フ、即チ第二所得モ甲種デアアル場

合ニハ第三所得ニ綜合セラレナイ、ソレハ

資本利子税ノ對象デアルト云フコトデア

アル

○左右田喜一郎君 唯今ノ何ハ資本利子税

ノ乙種ヲ御考ニナレバ直グ分ル、乙種ハ第

三所得ニ綜合セラレルノデアリマス、資本

利子税ノ甲種ガ第三所得ニ綜合セラレナイ

ト云フコトハ單純ニ第二所得ト偶、課税物

件ガ同一デアアルカラト云フ理由ハナイト思

フ、資本利子其モノガ第三種所得ニ課税セ

ラレナイト云フ法規ハ何處ニモナイ、ソレ

デ私ハ疑ヲ生ジマス、サウシテ資本利子税

ト云フモノト所得税トガ兩方同ジ所謂權利

ヲ有ッテ居ルト云フノデアアルナラバ、何故

ニ資本利子ノ甲種ヲ第二所得ノ甲種ト認メ

テ第三所得ニ綜合シナイノカト云フコトニ

ナラバ第三所得ニ綜合セラレテモ宜イデア
ナイカ、斯ウ云フコトヲ申上ダタイノデア
リマス、私ハ一寸感ズル所ハ若シサウ云フ
扱ヒニナルナラバ資本利子税法案ノ中ニ何
カ一箇條ガナケレバナラヌノデナイカ、斯
ウ云フ考ヘテ持ッテ居リマス

○政府委員(黒田英雄君) 其ノ點ニ付キマ
シテハ資本利子税法ニ於キマシテ三條ニ於
キマシテ「甲種ノ資本利子ハ其ノ支拂ヲ受
クヘキ金額ニ依ル」ト云フコトニ規定ヲ致
シマシテ丁度所得税法ニ於キマスル第二種
ノ所得ト同ジヤウニ取扱フコトヲ表明イタ
シタノデアリマス、ソレカラシテ第五條ニ
於キマシテモ甲種ノ資本利子ニ付キマシテ
ハ左ニ掲グルモノニ資本利子税ヲ課ケナイ
ト云フコトデ「所得税法其ノ他ノ法律ニ依
リ第二種所得税ヲ課セラレサル者ノ支拂ヲ
受クル利子」ト云フヤウナコトヲ規定イタ
シテ居ルノデアリマス、此法律ニ依リマシ
テ唯今何カ特殊ノ規定ヲ設ケナイト云フト
所得税法ノ第二種ノ所得ノ如ク別箇ニ綜合セ
ズシテ其金額ニ對シテ課税スルト云フコト
ノ趣意ガ現ハレヌデアリカト云フ御議論
ニ對シマシテハ、今申シマスヤウニ三條ノ
規定ヲ以テ明カニ其點ヲ現ハシテ居ル積リ
デ居ルノデアリマス、ソレカラモウ一ツハ
税率ガ累進率ニナッテ居リマセヌノデアリ
マスルカラシテ、特ニ綜合ト云フ風ナコト
ハ資本利子税ニ付テハ實質ニ於キマシテハ
影響ヲ認メナイコトノヤウニ考ヘテ居ルノ
デアリマス

關係ガ一番初メニ申上ダタ通りニ餘リニ人
爲のダト云フコトニ實ハ原因ガアルノデナ
イカト思フノデアリマス、第二所得税ト云
フモノヲ第三所得ト區別シテ規定セラレタ
時ニ、資本利子税ト云フモノガナイ時ニ、
是デ納マツノデアリマスガ、資本利子税
ト云フモノヲ造タ時ニ於キマシテハ、第
二ノ所得ハ明カニ資本利子デアルノデア
ル、所得トシテ扱ヘナイト云フヤウナ性質ヲ其
所ニ有ッテ居ルノデナイカ、ソレヲ今明カ
ニ示シテ暴露シテ仕舞タノデナイカト云
フヤウナ感ジガ私ニハスルノデアリマス、
先日來衆議院邊リデモ頻リニ此資本利子税
ヲ第二所得ノ方ニ繰込ムデ税率ヲ百分ノ二
ダケ殖ヤシタラ宜イデアナイカト云フ議論
ガ大分アリマシタガ、私ハ其御説ヲ速記録
ナドデ拜見シ、又親シク拜聴イタシマシテ、
起ルノハ何時モソレハ反對ノヤウナ氣ガス
ルノデアリマス、即チ寧ろ第三所得ヲ資本
利子税ノ方ニ持ッテ來ルコトガ至當デヤナ
イカト云フ感ジガシテ居ルノデアリマス、
ソコデ疑ガ起リマスノハ、ソレヲヤッテモチ
トモ差支ナイト思フ、第二所得ノ方ヲ資本
利子税ニシタ所デチットモ差支ナイノデア
リマシテ、唯、其處ニ差ガ起ルダラウト思フ
コトハ國債ノ免稅規定デアリマス、ソコデ
實質的ニ私ハ國債ノ免稅規定ト云フモノハ、
民間ニ於テモ非常ニ議論ガアルノデアリマ
シテ、先日來、本會議ニ於キマシテモ御説
明ガアッタ如ク、非常ナ時機ニ於テ一ツノ
武器ニ過ギナイ、所謂傳家ノ寶刀トモ云フ
ベキモノデアアル、先程カラ馬場、添田兩先
輩カラ御話ガアリマシタ通り、非常ナ時機
ニ於テ執ッテ手段ヲ、ズット今日マデ續ケテ
來テ居ルノデ、或ハ此ヤウナ第二所得ト資
本利子税ト云フモノノ關係ヲ考ヘル時ニ於
テ、藤山委員カラ御話モアリマシタガ、此

際、實ハ此コトヲ根本的ニ御考ヘニナル時
期デハナイカト云フヤウナ感ジガ私ハスル
譯デアリマス、私ハ實ニ國債ノ免稅規定ヲ
今日廢セ上云フヤウナ議論ヲ積極的ニ申ス譯
デアリマセヌガ、今ノヤウナコトモ御考ヘ
ニナルベキデハナカッタカト云フ感ジガス
ルノデアリマス、殊ニ世間ニ於ケル經濟上
ノ關係ニ於テ見マシテモ、國債ノ免稅規定
ト云フモノハ色々ナ經濟上ニ於ケル影響モ
アルノデアリマシテ、政府ニ於テハ之ヲ規
定セラレル時ノ歴史カラ考ヘレバ、萬無理
モ無イコトデアリマス、サウシテ國債ヲ普
及スルト云フヤウナ意味ニ於キマシテモ、
亦、大ヘン效果ノアルコトデアリマスガ、
今日ノ所謂稍、平時ニ復シタヤウナ場合ニ
於テ、尙ホ且、取ッテ置クダケノ必要ガアル
カドウカト云フコトモ考ヘラレナイノデハ
ナイノデアリマス、サウシテ、是ダケノ利
子ニ對スル課税ノ如何ト云フヤウナモノデ
ハ、例ヘバ發行價額ノ如何ニ依ッテ違モ左
右出來ル問題デハナイガ、此際ハ寧ろ之ヲ
廢止スルト云フヤウナコトニ出テ、サウシ
テ、民間ニ於ケル色々ナ不平ノ聲モ一掃ス
ルト云フヤウナコトニセラルレバ、先程カ
ラヤカマシク申スヤウナ、第二所得ト資本
利子トノ關係モハッキリスルヤウナコトニ
ナッテ仕舞ヒハセヌカ、是ハ實ハ或人達
ナドガ邪推シテ、今回、資本利子税ヲ設ケ
タノハ國債ノ免稅規定ダケノ關係ト云フヤ
ウナ風ニナルト云フコトヲ言フ人モアリマ
スガ、ドウモ第二所得ト資本利子トノ關係
ガ私ハ餘リハッキリシナイヤウナ氣持ガセ
ラル、ノデアリマス、ソレデ先程カラサウ
云フ具體的ナ一ツノ問題ニ付テ御質問申上
ダタ次第デアアルノデアリマス、併シソレニ
付テ今御了解ヲ得ナカッタノハ誠ニ遺憾デ
アリマスガ、御考ヘ置キヲ願ヒタイモノデ

アリマス
○政府委員(黒田英雄君) 尙ホ御尋ノ點ハ
能ク伺ヒマシテ考究イタシマスルガ、唯、
唯今御述ベニナリマシタ中ニ、第二所得税
ハ寧ろ之ヲ資本利子税ノ方ニ持ッテ行ッテ仕
舞タ方ガ、宜イデアナイカト云フ風ニモ
考ヘルト云フ御話モアリマシタガ、是ハ當
局ニ於キマシテハ全然反對ノ考デ居ルノデ
アリマスルカラ、此點ヲ簡單ニ唯、一言申
上ダテ置キタイト思フ、大藏大臣モ先程申
述ベマシタ通り、第二所得ハ之ヲ矢張り、
即チ言換ヘレバ、唯今、左右田サンノ御用
キニナッテ御言葉ニシマスレバ、資本利子
税、其資本利子税モ之ヲ總テ其個人ノ他ノ
所得、或ハ田畑ノ所得、或ハ俸給ノ所得、
總テ之ヲ合シテ、サウシテ其ノ人ノ擔税能力
ニ應ジテ課税ヲ行クト云フコトガ、所
得税ノ寧ろ理想デアラウ、サウシテ其ノ人ノ
人的關係ヲ見テ、或ハ控除スベキモノハ控
除シ、或ハ課税スベキモノハ課税ノ適當ナ
率ヲ適用スルト云フコトニ依ッテ、初メテ
所得税ノ完全ヲ期スルコトガ出來ルコトト
考ヘル、唯、其第二種ニ屬シマスルモノニ
至ッテハ、大體ガ無記名ノモノデアアルノデ
アリマスカラ、此無記名ノモノノ個人ニ綜
合イタシマスルト云フコトニ付テハ非常ナル
困難ガアル、是ハ佛蘭西ニ於キマシテモ、
伊太利ニ於キマシテモ非常ニ困難シタ歴史
ヲ有チ、尙ホ今日ニ於テモ、之ニ對シマシ
テハ非常ニ考究シテ居ルト云フコトハ申上
グルマデモナク御承知ノコトト思ヒマス
ガ、サウ云フ事情デ唯、綜合ガ出來ナイノ
デアアル、其處ニアルノデアリマシテ、之ヲ
資本利子税ヲ今度設ケタカラト云フテ、其
方ニ持ッテ行クト云フコトハ其趣旨カラ
見マスルト、全然反スルコトニ相成ル、唯
綜合サレタ中ノ色々ノ所得ヲ捉マヘテ、ソ

ノ所得ニ應ズル補完稅ヲ設ケルト云フコト
ガ理想デアッタノデアリマス、唯、今日ニ
於キマシテハ遺憾ナガラ第二種ノ所得ガ未
ダ綜合シ得ル時期ニ達シテ居リマセヌ結果
ト致シマシテ、第二種ノ所得ニ更ニ資本利
子稅ヲカケルト云フヤウナ形ニ相成ルノデ
アリマシテ、色々ノ御議論ヲ生ズルヤウナ
結果ニ相成ルノデアリマスカラ、是ハ唯今、
誠ニ止ムヲ得ナイ結果カラ參テ居ルノデ
アリマス、併シ是ハ尙ホ十分ニ御尋ノ趣旨
ハ伺ヒマスルシ、又速記録等モ拜見イタシ
マシテ、十分ニ考究イタシマシテ誤テ居
リマシタナラバ、更ニ申上ゲルコトニ致シ
タイト思ヒマス

○左右田喜一郎君 一人、大ヘン長ク時
間ヲ取ツテ甚ダ恐縮デアリマスガ、資本利子
稅ノコトニ關係シマシテ、モウ一ツ伺ッテ
置キタイト思フコトガアリマスガ、ソレハ
多分藤山サンカラモ御話ガアツカト記憶
シテ居リマスガ、世間デハ今回ノ資本利子
稅ヲ創設シタニ付キマシテ、株式ノ配當ヲ
矢張り其中ニ入レテ吳レト云フ要求ガアル
ノデアリマス、ソレデ私ハ今マデ申上ゲタ
ヤウナ理由ニ依リマシテ、寧ロ此第三所得
稅ノ中ノ放資ト云フモノハ、資本利子ノ源
泉課稅ニスル以上ハ資本利子ノ性質ヲ有
テ居ルノデアッテ、サウシテ此株式ノ配當
ト云フヤウナモノコソ、私ハ資本利子ト云
フ風ニ見ナイデ、寧ロ第二所得ト云フヤウ
ナ風ニ感ズルト云フコトガ至當デハナイカ
ト考ヘルノデアリマス、是ハ株式ノ配當デ
モ或ハ何割何分トカ云フモノヲ決メテヤル
ノデ、投資ヲシタモノニ對スル何割何分ト
初メカラ分ッテ居ルノデアリマスカラ、資
本利子トナツトモ違ハナイト云フコトモア
リマセウ、又是ハ世論デハゴザイマセヌケ
レドモ、併シ學問上ニ於テモ株式ノ配當ハ

企業利潤ヲ見テ、銀行預金ノ利子トカ公債
ノ利子トカ云フモノトハ多少區別シテ扱フ
ト云フヤウナコトモ、或ル一派ノ說ニハア
リ得ルコトデアリマス、若シサウシテ假リ
ニ配當ト云フモノヲ第二種ノ所得ニスルト
云フヤウナコトガ出來レバ、大ヘン私ハ都
合ガ宜イヤウナ氣ガスル譯デアリマス、ソ
レデ或ル非公式ノ席上デアリマシタガ、唯
今、御列席ニナッテ居ル政府委員ノ或ル方カ
ラ伺ヒマシタノデアリマスガ、是ハ無論責
任ヲ有ッテノ御話デアアル譯デハゴザイマス
マイガ、今現ニ第三所得ノ中ニ繰込マレテ
居ル株式配當ノモノヲ源泉課稅ニシタナラ
バ、大體下ノ位ノ歩合ニシタラ宜イノダラ
ウカト云フヤウナ問ヲ起サレタ時ニ、其御
答トシテ非常ニ高イ稅率デモ課セナケレバ
イカスダラウト云フ御答ガアリマシタ、是
ハ數字ヲ申上ゲテモ却テ其方ニ御責任ヲ生
ジテ、御困リト思ヒマスカラ態ト申上ゲマ
セヌガ、私ハ若シ其御調ガ付クコトガ出來
ルノナラバ、大變ムヅカシイモノデ恐ラク
調ガ付カヌト思ヒマスガ、若シソレガ付ク
ノデアリマスレバ、收入ノ高ニ於テ變ラヌ
ノナラバ、先ヅ其高ヲ以テ源泉課稅ニシテモ
微稅セラル、方ハ餘ホド樂ニナルト私ハ考
ヘルノデ、又其率ガ問題ニナツテハ是ハ又
別問題デアリマスガ、同ジ率ヲ以テ源泉課稅
ニサレテモ、私ハ利益ハ甚ダ大デアラウト
感ズル次第デ、例ヘバ同族會社ト云フヤウ
ナヤカマシイ問題モ、ソレニ依ッテ大部分
一掃セラレヤシナイカト云フ感ジモスル譯
デアリマス、ソレカラ微稅手續ニ於テモ非
常ナ簡略ニナル譯デアリマス、此點ハ私
ハ世間ノ要求ノ聲モ大キイコトデアリ
マスノデ、ドノ程度マデ御調査ニナッテ居
リマスカ、其點モ此第二種所得ト云フ
コトノ問題ニ關聯シテ、チヨット御聽キ

シテ見タイト思フノデアリマス
○政府委員(黑田英雄君) 配當金ヲ第二種
ノ所得トシテ課稅スレバ、微稅上極メテ便
宜デハナイカト云フ御意見デアリマスガ、
是ハ御意見ノ通り、第二種所得稅ト致シマ
スレバ微稅上ニ於キマシテモ極メテ簡單ニ
相成ルノデアリマス、併シナガラ先程來、
綜合スルト云フコトガ理想デアルト云フコ
トヲ述ベテ居リマス通りデアリマシテ、之
ヲ第二種ト致シマスレバ、僅ナ株式ヲ以テ
其配當ニ依ッテ僅ニ生活ヲシテ居リマスル
者モ、非常ナ多額ノ資産ヲ有ッテ居リマス
ル所ノ人モ、同ジ率ノ課稅ヲ受ケルコトニ
ナリマシテ、所得ノ中ノ非常ニ大キナ分ヲ
占メテ居リマス所ノ株式ノ配當ト云フモノ
ニ付キマシテノ負擔ト云フモノガ、極メテ
公正ニ行カナイ、擔稅能力ニ應ジナイト云
フ結果ヲ來スノデ、ソレ故ニ微稅上ニ於テ
ハ極メテ簡單デアリマスルガ、其簡單ヲ捨
テ、極メテ困難ナル煩雜ナル手續デモア
リマスルガ、ソレヲ忍ンデモ向ホ負擔ノ公
正ヲ圖ルト云フ趣旨カラ致シマシテ、配當
金モ綜合サレルコトニ相成ッテ居ル次第デ
アリマス、是ハ理論ト致シマシテハ、第二
種ニ致シマスト云フコトハ、寧ロ此負擔ノ
公正ノ上カラ言ヒマスレバ却テ好マシクナ
イコトデアラウト云フ風ニ考ヘルノデ、此
點ハ私ガ申上ゲル迄モナク、大藏大臣モ先
日御述ベニナリマシタカラ省略イタシマス
ガ、假リニ之ヲ源泉ニ於テ課稅スルトシテ
今日ノ稅額ヲ得ルノニハドレ位ニナルカト
云フコトニ付テハ、昨日モサウ云フ調ヲ拵
ヘテ貴ヒタイト云フ御注文ガ出マシテ、折
角、唯今調査ヲ致シテ居リマスルカラ、出
來マシタナラバ御目ニ掛ケタイト思ッテ居
リマス、タゞ唯今御述ベニナリマシタ中
ニ、先般、非公式ノ席ニ於テ他ノ政府委員

カラ御話申上ゲタト云フコトデアリマスル
ガ、如何ナル數字ヲ申上ゲマシタカ知リマ
セヌガ、多分、是ハ數年前ニ大體調査ヲ致
シテ見タコトモアルノデアリマス、餘程前
デアリマス、其時ノ推算デアラウト思ヒマ
スルガ、今日ニ於キマシテ現在ノ負擔ヲ適
切ニ割出スト云フコトハ是ハ困難デアリマ
スルガ、大體、法人ノ所得稅額ト云フモノ
ヲ、第三種ノ配當ノ所得ニ對スル稅額ト云
フ風ナモノカラ換算ヲ致シマシテ、推算ヲ
致シテ見ヤウト云フコトデ、唯今イタシテ
居リマスカラ、出來マシタナラバ御目ニ掛
ケルコトニ致スノデアリマスルガ、免二角
今日ノ所得ノ率ヨリハ高クナル、多クナル、
多イト云フコトハ是ハモウ明カナコトデア
ラウト考ヘテ居リマス、唯、ドレ位ト云フ
コトハソレヲ調ベマシタ上デ、是モ的確ノ
コトハ出來マセヌノデアリマスガ、推算ヲ
加ヘマシタ上デ出來ルダケ拵ヘマシテ御目
ニ掛ケマス

○左右田喜一郎君 序デニモウ二ツバカリ
表ヲ頂戴イタシタイノデス、其コトヲ申述
ベテ宜シウゴザイマスカ
○委員長(子爵前田利定君) 宜シウゴザイ
マス

○左右田喜一郎君 一ツハ免稅點ニ關スル
コトデアリマスガ、今回ノ稅制整理ニ於キ
マシテ免稅點ヲ設ケテ、或ハ此金額ヲ變更
スルト云フヤウナコトニ、大藏大臣ハ大分
重キヲ措カレテ居ラレルヤウデアリマス
ガ、從テ此免稅點ノ金額ノ如何ニ依リ大分
議論ガ起ッテ居ルヤウデアリマス、衆議院
ニ於テモ大分其ヤウナ說ガ出タヤウニ承
テ居リマスノデアリマスガ、例ヘバ地租ノ
免稅點ヲ二百圓ト云フコトニスレバ、百九
十九圓ト二百一圓トハドウダ、ト云フヤウ
ナ議論ガ始終出ルヤウデアリマス、ソレデ

ソレニ付キマシテ、是ハ地租バカリヂヤゴ
ザイマセヌ、相續税ニ付テモ同ジコトデア
リマス、營業收益税ニ付テモ同ジコトデア
リマス、又免稅點ヲ作ルトキニ何時モ同ジ
問題ガ出ル、所得稅ニ付テモ同ジコトデア
リマス、此免稅點ニ付テノ公平不公平ト云
フヤウナコトハ、例ヘバ金額ガズト多ク
ナッテ、五千圓トナリマシタナラバ、四千九
百九十九圓ト五千一圓ト云フモノトハ大體
狀況ハ同ジデアリマス、ガ極端ニ申シマス
レバ二圓持ッテ居ル者ト一圓持ッテ居ル者ト
ハ、大變ニ位置ガ違フヤウナモノデゴザイ
マス、ソコノ點ニ依ッテ、決メ方ニ付テモ
大分同ジ一圓二圓ノ差デモ輕重ガアルト云
フヤウナコトヲ、何時モ議論ガ起ルヤウナ
譯デアリマス、ソレニ付キマシテ政府デ御
調ベニナリマシタコトハ、地租ニ付テハ二
百圓以下ノモノヲ今度免稅スレバ、幾ラ幾
ラ減收ガアルト云フコトヲ御述ベニナッ
コトガアリマスヤウデ、ソレヲ承知イタシ
テ居リマスガ、サウ云フヤウナ色ニナ不平
ガ、假リニ二百一圓以上持ッテ居ル者モ二
百圓マデノ免稅スルト云フコトデアレバ、
全部此不平ハ一掃セラレルヤウナ氣ガスル
ノデアリマス、併シ是ハ財源ノ關係モ無論
アルコトデアリマセウガ、サウシタラバ、
ドノ位減收ニナルモノデアラウカト云フコ
トヲ、今回、免稅點ヲ設ケラレタ稅制ニ付
テ、簡單ニ金額ヲ御示シシテ戴ケバ大ヘン
結構ダト思ヒマス、ソレカラ、モウ一ツハ
賣藥ニ關スルコトデアリマス、賣藥稅ニ付
テハ色ニナ議論ガアッテ、大藏大臣ハ度々
山間僻邑ノ地ニ於テハ賣藥ハ詰リ必需品デ
アルト云フコトヲ申ス、一方ニ於テハ、イ
ヤ唯、口中ノ清涼劑ト云フヤウナコトニ感
ゼラル、ヤウナコトデ、大分……假リニ嗜
好品トシテ見ルヤウナコトガ出來ルモノデ

アル、ト云フヤウナコトヲ申ス人モ大分ア
ル譯デゴザイマスガ、若シ假リニ出來マス
ルナラバ、其賣藥ノ中ノ區分ガ統計ニデモ
現ハシテ戴クコトガ出來マセヌノデゴザイ
マセウカ、是ハ餘程ムツカシイコト、思ヒ
マスガ、若シ出來マスレバ其點モ承リタ
イ、此二點ダケ願ヒタイト思ヒマス

○政府委員(黑田英雄君) 唯今御述ベニナ
リマシタ初メノ統計デアリマスルガ、是ハ
免稅點以下ノモノヲ總テノモノニ對シマシ
テ、減ジタトスレバ、ドノクヲ非稅額ニ影
響スルカ、是ハ御注文ハ地租、所得稅、總
テデゴザイマスカ、營業收益稅……

○左右田喜一郎君 相續稅モ……

○政府委員(黑田英雄君) 是ハ出來ルダケ
一ツ調ベマシテ見マスデスガ、全部御希望
ニ副フヤウニ出來ルカドウカ、少シ疑問デ
アリマス、ソレカラ第二ノ此賣藥ニ付キマ
シテハ御承知ノ通り、賣藥ガ印紙稅ニナッ
テ居リマスル結果ト致シマシテ、賣藥ノ種
類、ドウ云フ賣藥ガ幾ラデアッテ、ドウ云
フ風ニ消費サレテ居ルカト云フ風ナコト
ハ、調査ヲ致シテ居リマセヌ結果ト致シマ
シテ、是ハドウモ御希望ニ副フヤウナ數字
ヲ表ハスコトハ困難ダト思ヒマスルガ、或
ハ內務當局ノ方ニデモ何カ在リマスレバ、
一ツ整ヘテ見タイト思ヒマスガ、併シ大藏
省ノ關シマスル所ニ於キマシテハ困難ノヤ
ウニ考ヘマス

○委員長(子爵前田利定君) 皆様ニ御異議
ナケレバ、今日ハ是デ散會ヲ致シマシテ、
明日ハ午前十時三十分ヨリ開會スルコトニ
致シマス

午後四時一分散會
出席者左ノ如シ
委員長 子爵前田 利定君
副委員長 男爵阪谷 芳郎君

委員

子爵青木 信光君
子爵裏松 友光君
石原 健三君
男爵藤村 義朗君
男爵長 基連君
仁尾 惟茂君
添田 壽一君
南 弘君
井上準之助君
馬場 鎮一君
西野 元君
藤山 雷太君
末延 道成君
山田 惠一君
左右田喜一郎君

國務大臣

大藏大臣 濱口 雄幸君

政府委員

大藏省主計局長 河田 烈君
大藏省主稅局長 黑田 英雄君
大藏書記官 藤井 眞信君
大藏書記官 佐野 正次君

大正十五年三月五日印刷

大正十五年三月五日發行

貴族院事務局

印刷者 內閣印刷局